

平成23年第5回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成23年6月20日(月曜日)

議事日程第3号

平成23年6月20日(月曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 26名

出席議員 26名

1番	甲村聰君	2番	保坂悟君
3番	斉木勇君	4番	渡辺重雄君
5番	古畑浩一君	6番	後藤善和君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	久保田長門君	10番	保坂良一君
11番	中村実君	12番	大滝豊君
13番	伊藤文博君	14番	田原実君
15番	吉岡静夫君	16番	池田達夫君
17番	五十嵐健一郎君	18番	倉又稔君
19番	高澤公君	20番	樋口英一君
21番	松尾徹郎君	22番	野本信行君
23番	斉藤伸一君	24番	伊井澤一郎君
25番	鈴木勢子君	26番	新保峰孝君

欠席議員 0名

説明のため出席した者の職氏名

市	長	米田	徹君	副市	長	本間	政一君
総務部	長	田鹿	茂樹君	市民部	長	吉岡	正史君
産業部	長	酒井	良尚君	総務課	長	渡辺	辰夫君
企画財政課	長	斉藤	隆一君	能生事務所	長	久保田	幸利君
青海事務所	長	扇山	和博君	市民課	長	竹之内	豊君
環境生活課	長	渡辺	勇君	福祉事務所	長	池亀	郁雄君
健康増進課	長	伊奈	晃君	交流観光課	長	滝川	一夫君
商工農林水産課	長	金子	裕彦君	建設課	長	串橋	秀樹君
都市整備課	長	金子	晴彦君	会計管理者会計課	長	山崎	弘易君
ガス水道局長		小林	忠君	消防	長	山口	明君
教育	長	竹田	正光君	教育委員会教育総務課	長	結城	一也君
教育委員会こども課	長	山崎	光隆君	教育委員会生涯学習課	長		
				中央公民館長兼務		田原	秀夫君
				市民図書館長兼務			
				勤労青少年ホーム館長兼務			
教育委員会文化振興課	長	小林	強君	監査委員事務局	長	横田	靖彦君
歴史民俗資料館長兼務							
長者ヶ原考古館長兼務							

+

+

事務局出席職員

局	長	小林	武夫君	係	長	松木	靖君
主	査	大西	学君				

午前10時00分 開議

議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はございません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（古畑浩一君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、11番、中村 実議員、23番、斉藤伸一議員を指名いたします。

日程第2 . 一 般 質 問

議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

17日に引き続きまして、通告順に発言を許します。

田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

7番（田中立一君）

おはようございます。市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告書に基づいて質問いたしますので、よろしく願いいたします。

1、公文書関連について。

東日本大震災を契機に、過去において地震により発生した津波や土砂災害など地域を襲った災害に対して、改めてその史実を綴った記録や資料である公文書及び古文書の価値が見直され、今後の復興においてもその保存・管理・利活用の重要性が問われております。

また、公文書管理法が施行され2か月余り経過しました。

「公文書は国民共有の知的資源であり、国民が主体的に利用する権利がある」（1条）とありますように、これを趣旨とするこの法律が成立した2009年から、各地方自治体では体制整備に取り組んで来ておりますが、糸魚川市における公文書及び古文書について現状と考えを伺います。

(1) 公文書の管理と利活用について。

公文書の保存の現状と課題について。

公文書の管理と市民への公開について。

(2) 糸魚川市の古文書について。

市内の古文書把握について。

保存・管理について。

今後の動向について。

2、並行在来線と大系線について伺います。

(1) 並行在来線について。

5月27日の対話集会において示された新潟県並行在来線株式会社の運行の課題と方向性について、市民の間で話し合われた内容について市の考えを伺います。

ディーゼル車の導入について。

泊駅での折り返し運転と相互乗り入れについて。

新潟への優等列車の運転について。

(2) 大系線の利用促進の取り組みについて。

3、農業関連について伺います。

(1) 昨年度からの課題について市の対策を伺います。

猛暑対策について。

特に今年は、震災により夏場の電力不足から、県内では米作りへの影響が懸念されておりますが、当市ではいかがでしょうか。

ブランド力の向上について。

(2) 今年度から新たな段階を迎える制度について伺います。

戸別所得補償制度の加入状況について。

農地・水・環境保全向上対策の取組状況について。

以上1回目、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、糸魚川市文書規程に基づき保存年限に到達した公文書の中で、歴史的資料として重要なものは保存し、それ以外のは廃棄いたしております。

また、職員の異動に伴う統一的な取り扱いの徹底が課題であると考えております。

2つ目につきましては、公文書はファイリングシステムにより、本庁舎及び両事務所で管理をし、文書開示の請求があった場合には、糸魚川市情報公開条例により対応いたしております。

2点目の1つ目につきましては、これまでに新潟県立文書館と市教育委員会が、市内の重要な古文書の所在と、その概要を調査いたしております。

2つ目につきましては、寄贈、あるいは寄託をいただいた古文書につきましては、順次、目録等を作成いたしております。

3つ目につきましては、所有者の皆様と連絡をとりながら古文書解読講座を開催するなどして、古文書に親しむ環境を整えてまいります。

2番目の1点目、1つ目と2つ目につきましては、新潟県並行在来線株式会社が、現在の北陸本線の乗客数や運行状況を把握をし、必要な車両や列車運行について示されたものにとらえております。

折り返し運転と相互乗り入れにつきましても、富山県側と協議を重ねていくこととなりますが、市といたしましては、市民や市議会のご意見をお聞きする中で、並行在来線株式会社に要望してまいりたいと考えております。

3つ目につきましては、現在の利便性を確保するために新潟県と並行在来線株式会社に、新潟方面への運行を強く要望してまいります。

2点目につきましては、まず乗っていただくことが第一であり、北陸本線等利用促進協議会や大系線利用促進輸送強化期成同盟会において各種イベント等を実施して、利用促進に努めてまいります。

3番目の1点目の1つ目につきましては、特に大きな問題はないと考えております。

2つ目につきましては、昨年度、関係団体で米販売プロジェクトを立ち上げ、JAひすいが本年度からエコライス栽培を実施し、農家へ生産指導を進めております。

また、ジオパークとタイアップしたPRシールを作成し、糸魚川米の販売強化を進めており、これらに支援をしております。

2点目の1つ目につきましては、6月10日現在、1,785件の申請書を受け付けております。

2つ目の共同活動支援では、昨年度同様に22活動組織、対象面積約1,300ヘクタールであります。

また、本年度から新たに創設された向上活動支援では、18組織から取り組み要望がありますが、国の枠を超える要望となっており、今後、計画書の審査により取り組み希望等が認定される見込みであります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

まず、公文書関連についてお願いいたします。

保存の現状と課題ですけれども、今回施行されました公文書管理法、この法律は公文書を歴史資料として保存し、将来に役立てることが目的ですけれども、1月22日に日本経済新聞、「公文書管理自治体動く」と題して、法施行前の自治体の動きを大きく伝えております。

公開施設設置に向けた準備を進める一方、条例制定に動く自治体もあるそうですけれども、糸魚川市では、この法律の施行をどのように認識して、今後どのように努めていくか考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

公文書等の管理に関する法律の施行であります。これにつきましては国及び独立行政法人等の諸活動等について、その記録を残すということを主眼とした法律であるというふうに理解をしております。

ただ、この法律に沿って市町村においても努力義務といいますが、同様の取り扱いをするようにということが規定をされておりますし、当市におきましても全国の市と同様に文書規程を設けて、それに沿って適切な管理をしているというふうに考えております。

それで公開施設の設置ということですが、基本的には歴史的公文書については、公開を目的としたものではないという理解をしております。一応行政の内部において、将来、もしかすると参考として利用したいということ想定をして、保存をするものであるというふうに考えております。情報公開条例の定めによりまして、そういった申請がありますれば検討をして、公開をす

るということもあるかなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

認識は少し私と違うなという印象を今受けましたけれども、まず、この日経の記事から、この努力義務をやっていくには、まず難関というものがあまして、非現用の文書をどう評価して、選別して残していくかという。そういうことに対して糸魚川市は選別の基準、あるいは職員の体制、また、その研修等はどのように行っているか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

基本的に、市の中での選別の基準というものを持っております。これは今まで永久保存だったものを、例えば何らかの理由で永久保存から外すような場合に、そういった場合には、そうはいつでも保存をしておくべきだということ。それから特段古いものとか、いろいろそのときそのときで大きな節目となったような事柄については、保存をするということで考えております。

それから職員につきましても、基本的には歴史的公文書を整理をする職員、図書館の職員でありますがおりまして、週に2日程度、専門にその整理をしておるという状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

職員では週に2日、図書館の職員ということですがけれども、隣の上越市のことになりましたけれども、今月の1日、6月1日、公文書センターが清里区の総合事務所に移転オープンしました。

報道によりますと旧施設が老朽化、あるいは文書保存環境を改善するために、約650万円かけて改修した。各施設に分散保管されていた行政文書や古文書も集約して、古文書8万2,000点、歴史公文書2万8,000点、マイクロフィルムで約2,000本収蔵して、閲覧も可能ということであります。

チラシとこれを私、手に入れたんですけども、市民がかなり利用し、公開されてかなり効果を上げているような印象を受けますけれども、今の説明ですと、公開は念頭にないと。また、職員1人ですか、週に2日と、これで足りているという認識でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

私が言いましたのは、職員が週2日、整理のためにその時間を使っているという意味で言ったわけでありまして、現在のところ公開をするための職員ということではございません。

歴史的公文書につきましても、その文書そのものを公開をするということは、できない文書もあるというふうに思っております。例えば個人情報が含まれた情報、そういったものが公文書の中では非常に多いという認識をしておりますので、そういったことから、恐らく上越市の清里にできたその施設についても見ていただけるもの、それから、ふだんは奥にしまっているものというような形になっているだろうというふうに思っておりますが、今後、上越市のその施設についても、私らも一度見せていただいて、今後の参考にはさせていただきたいという考え方ではあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひ参考にしていただけたらなと思いますけれども、先ほどの答弁で開示請求に応じて開示をしていく、あるいは公開すると。確かにおっしゃる意味はよくわかりますし、中には公開ができないものもあるかと思えますけれども、時間がたてば、また公開できるものもあるわけでありまして。そういうことで開示の請求というのは、じゃあ糸魚川市では年間何件ぐらいあるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

すみません。現在、昨年度何件あったかという資料は持っておりませんが、私の認識では、そんなに開示請求そのものは、多くないというふうに認識をしております。

開示につきましては、これは文書公開条例の中で決まっておることですので、一応請求がない場合には、当然どうぞごらんくださいという形にはなってはいないと。どうしても見たいという場合に、見ていただけるということでありまして、文書規程の中では、基本は文書は職員以外のものに見せてはならないという書き方をしております。ただ、市長が特に必要と認めた場合は、この限りではないという一文がありまして、それで情報公開の請求があった場合には、ごらんをいただいているというものだというふうに理解をしております。

失礼しました。昨年度の請求件数が24件あったということでありまして。失礼しました。21年度で24件だということでありまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

やはり開示請求だけでは、少ないなということかと思えます。かなり消極的な印象は否めないんじゃないかなと、公開に関しては、そう思います。

やはり今回の法の施行を受けまして、公文書というのは市民のものという認識が、やはり必要なんじゃないかなという気がするわけがございます。やはりもっと上越のセンターを見てわかるように自由に、気軽に、広く、情報公開とはまた別の方法で公開していくような方法というのを、とらえていく必要があるんじゃないかなと私は思います。

この公文書関連について、私は去年の6月の議会でも一度取り上げさせてもらいました。そのとき先ほどから話に出ております糸魚川市の文書規程のことについては、ホームページを見ても記載されていないということを指摘させてもらったんですが、今後ホームページに掲載するかどうかは検討すると。いまだまだ記載されていないかと思うんですけども、それは検討した結果、記載しないということになったんでしょうか、それとも何か理由があるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

ホームページへの公開であります。現在、7月1日からごらんをいただけるようにということで進めております。当市の例規システムの今変更を行っております。一応7月1日からそれが本稼働するということで、あわせて公開をしていきたいということでありますので、4月1日にはちょっと間に合いませんでしたけども、ご理解をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

では、7月1日から掲載していくということでしょうか。

今回、公文書管理法の施行を受けて、また公文書管理について質問をしているわけなんですけれども、糸魚川市は今後市民の行政参画、あるいは行政と市民との協働を進めていくのに大前提となるのが、この市民との情報の共有だと思っております。その基礎となるのが公文書の管理だと、あるいはその公開だと思っておりますので、ぜひ文書規程をホームページに載せる。それはその姿勢の第一歩だと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

情報の共有による行政参画等なんですけども、私もは昨年、政務調査で四国中央市に行ってきたけれども、この市は住民自治基本条例を定めて行政改革を推進してきておりましたけれども、その原点というのは、やっぱり市民との協働、あるいは徹底した行政理解、市民との論議でした。その大前提となったのがその情報の共有ですし、行政の透明性をいかに高めるかということが課題でありました。ぜひこういった市民と情報共有して、市の行政の危機感等を共有しながら、行政に反映していくようにお願ひしたいと思ひます。

次に、古文書についてでございますけれども、古文書で壁となるのは、字を読むことができる人が少ないということかと思うんですけども、職員の中では古文書の字を読める人、解読できる人というのは、何人くらいおられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 小林 強君登壇〕

教育委員会文化振興課長（小林 強君）

おはようございます。

職員何人が読めるかというのは正確に把握をしておりませんが、歴史民俗資料館の職員及び臨時

職員としてお願いしておる先生は、お読みいただけるというふうに認識しております。

失礼いたしました。学芸員も含めまして、3、4人ぐらいは読めるのではないかと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

3、4人おられるということですがけれども、今、古文書の保存管理等、あるいは解読を進めていく等において、今、十分足りている状況でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 小林 強君登壇〕

教育委員会文化振興課長（小林 強君）

古文書の解読というお話であります。職員のみでは現実として限界があるわけございまして、一般の市民の方からご協力をいただいているというのが実態でございます。

能生地区でいえば、能生ふるさとサークルだとか、糸魚川の郷土研究会というような組織もございまして、そういう方々の地道なご協力をいただきながら、目録を整理したり、古文書を整理したりしているのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

市民の協力もいただきながら進めているということなんですけれども、その市民の間では、市に何か要望等がありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 小林 強君登壇〕

教育委員会文化振興課長（小林 強君）

お答えいたします。

具体的に文書等でご要望をいただいているケースは、最近はないというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

各地域や集落、あるいは旧家に伝わる古文書が、過疎化、世代交代の中で急速に失われているのが現実であります。保存が急務かと思われまして。各個人の家のこともありまして、プライバシーの問題もあるわけですがけれども、中には骨董ブームもあったり、あるいは蔵ごと幾らで売られているという話も聞かないでもありません。非常に残念な話ですがけれども、そういったことを防ぐために

も市としては何か対策等は考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 小林 強君登壇〕

教育委員会文化振興課長（小林 強君）

お答えいたします。

先ほど市長の答弁にもございましたように、県の公文書館、それから糸魚川市教育委員会で、過去に市内にどんな古文書があるかというようなものを調査したものがございます。その中には市に寄贈いただいているものもございまして、それから各所有者で、ご自宅で保存しているようなケースもございまして、保存しているケースにつきましては所有者の方々と連絡をとりながら、今現在、保存していただく分には、それが一番いい状態だと思っておりますが、将来的には、ご縁があったら市にご寄贈いただきたいというようなお話をさせていただいております。

それから中山間地等で家を取り壊すというようなことで、廃屋になったりしまして古文書等が流出するケースがございます。そういうものにつきましては緊急避難先ということで、旧歌外波小学校の1室を古文書専用の保管庫ということで今確保しております、もしそのようなご相談をいただければ、やはり散逸は最低限避けるべきだということで、そちらのほうに保管をして、また将来、目録等の作成だとか資料整理ができるような、そんな体制を今整えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひ散逸を防ぐように対策をお願いしたいと思うんですが、今、歌外波小学校のほうに古文書等は保管されていると。ここ1カ所だけで保存されているんでしょうか。それとも、まだいろんなところに分散して管理されているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 小林 強君登壇〕

教育委員会文化振興課長（小林 強君）

お答えいたします。

糸魚川市が保管をしている古文書につきましては、能生図書館、それから歴史民俗資料館、長者ヶ原考古館に基本的に保管をしております、そこにつきましては目録が整備してあるものにつきましては、閲覧できるような状態にしております。

旧歌外波小学校につきましては緊急で、取り壊してをして何とか保管をしてくれというような市民要望に対して緊急的に保管をしたり、そのために準備をしてある施設でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

わかりました。

東日本大震災で、多くの文化財が被災しました。糸魚川市にも、たくさんの文化財や守るべき博物館、あるいは美術館、また、その中に大変貴重な資料等あるわけでございますけども、こういう震災に対する対応の考えはございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 小林 強君登壇〕

教育委員会文化振興課長（小林 強君）

お答えいたします。

東北の今回の大震災で、文化財をはじめ古文書等が、流出をされたり紛失をされたというケースがマスコミ等でも流れております。

基本的には市内にある古文書につきましては、きちっと所在を明らかにして、市のほうで資料として取りまとめておくということが基本でありまして、もう震災等が起きた場合には、その被害状況の的確な調査等をして、ケース・バイ・ケースでいろんな対応があるとは思いますが、そのような形で適切なのか、紛失をしないような対応をするということが、一番重要であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

保存、管理ですけれども、公文書も含めて今いろんな話を伺いましたけれども、マイクロフィルムやDVD、あるいはデジタル保存等、どのように今現在行われているか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 小林 強君登壇〕

教育委員会文化振興課長（小林 強君）

古文書に関してのみお答えさせていただきます。

目録等につきましては、紙ベースで整理したのもありますし、また、電子データベースで整理したのもございます。市史等のデータにつきましては、マイクロフィルムで保存したようなものもございまして、種々あるわけで、そのような形で現在保存をしているという現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

公文書につきましても現在のところ、紙ベースでの保管が主であります。

今後、本当に貴重なものについて今言われるように電子データ化等も、また必要とあらば検討をしてみたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

よろしく願いいたします。

一方で、古文書に記載されている記録、あるいは言い伝え、そういったことで多くの生命や財産が被災から逃れるという例もありました。

今後の防災計画やまちづくり、地域づくり、さらには今、市が進めておりますジオパーク等、古文書に記載されている過去の震災や、あるいは地理、言い伝え、そういったものを将来に役立てるよう、あるいは活用をどのように考えておられるか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

古文書から派生するいろんな出来事、また、それから知り得るいろいろな情報につきましては、その都度、今までのいろんな計画や、またいろいろな施策の中で、生かさせていただいておるわけでございます。それを一連で束ねて、これはこういうことで、こうなったというものはございませんが、今までの中で生かさせ、使わせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

アーカイブズ運動という言葉があるそうです。アーカイブというのはご存じのように、公文書館、あるいは古文書、歴史資料、そういう意味なんですけれども、資料の保存運動、文書館、文書館運動、そういったことで以前から取り組まれてまいりましたけれども、近年、NHKアーカイブズとか、あるいは阪神・淡路大震災、中越地震など、震災で流出、破損、紛失した公文書、古文書、文化財の保存・復元、さらに震災復興を目指す震災アーカイブなどが、マスコミによく取り上げられて使われています。

公文書や古文書、このように今では文化資源、歴史資源として、今、見直されております。地域づくり、地域おこしの資源。また、今回の東日本大震災の発生に見られる震災の教訓から、将来に伝える記憶や記録、復興への活用注目されていることを報告させてもらい、また、要望として話をさせてもらいました。よろしく取り組みのほう、お願いしたいと思います。

次に、並行在来線について伺いたいと思います。

先ごろ27日に行われました対話集会ですけれども、運行本数等も方向性が出されましたけれども、実情に見合った形で、朝夕のラッシュ時や午前中の増便とか、そういったことはわかりますし、ぜひ利便性を確保してサービスを維持してほしいなと思います。

それでディーゼル車なんですけれども、交直流車両に比べて割安で、1両編成が可能だから導入

ということかと思うんですけれども、全車両を一度にディーゼルにしていくのか、あるいは電車の使える現行車両を併用しながら変えていくのか、いろいろ考えがあるかと思えますけれども、市としての考えは何かございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

ディーゼルなり電車をどうするかという最終的な決定はしてありませんが、会社として経営状態、あるいは乗降客の数等を勘案すると、ディーゼル車1両、あるいは電車の1両の価格等の比較をすると、それと乗降客数を考えると、ディーゼルのほうが有利ではないかということでの判断でありまして、ただ、これが即、そのまま決定するというものではありません。

実態、中身を今後詰めたいということですので、どちらかにするかは今後の課題であります。やはり併用ということも当然視野に入れなきゃならんし、富山県のほう、あるいは長野県のほうが、どういうふうな形で決まってくるかということの連携をとらなきゃならんわけですので、そこら辺については市の意見というのを、今回、新たに特別委員会等を設けられる動きもありますので、市民との対話、あるいは議会等の意見を聞きながら会社のほうへ申し上げていきたいと考えてありますので、今の段階では、どうこうということを決めてる方向はまだ出ておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

この間の印象では、かなりディーゼル車を運行していく意味合いのニュアンスが高いような印象を受け、また、私と一緒にいった友達関係も、みんなそのような印象を受けてきたわけなんですけれども、今の話ですと、まだ市の考えはないということなのではないでしょうか、重ねて伺いますけれども、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

前回の集会等の中では料金等価格を見たり、あるいは実際の乗降客を見ると、1両編成でも十分やっていける時間帯が多くあるんじゃないかというような話の中から、ディーゼル化という話が表のほうに出たというふうに認識をしております。ですが最終的なものは、今後詰めるということになっておりますので、そのことはまだこれから会社、あるいはこれから実際に細かく詰めていただきたいことを要望しておりますので、しっかりそれらの対比を出していただいて、その中でやっぱり決めていただきたいということを要望しておりますので、そこら辺でしっかり詰めさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番(田中立一君)

経営上の問題もあろうかと思えますけれども、会社としては運営の経営のことを考えながら、この間の対話集会においても資料を提出してもらいましたけれども、電車、ディーゼル車のそれぞれの特徴やメリット・デメリットが書いてありました。その中で高い、安いの話があるわけなんですけれども、具体的に例えば電車だと初期に幾らかかるだとか、ディーゼルだと初期に幾らかかるだとか、あるいは10年後、20年後はどうなるだとか、あるいは現行車両はもう40年たつてるといっわけなんだけれども、一体どれだけ使えるのか。そういったシミュレーション等は、会社のほうでやっているということなんでしょうか、それとも市のほうでは会社等で示された、あるいは県のほうで示されたものを参考にしながらやっていくということなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長(本間政一君)

前回の対話集会の中では、ディーゼル車では1台約1.4億円、電車だと1両2億円等の話が出ておまして、特徴、あるいはメリット・デメリットの話が出たわけですが、会社全体の中では300億円から600億円の赤字になるということが前提になって話を進めているわけですので、そこら辺を考えると電車の価格というものは、非常にウエートが強いんだろうと思っています。

ただ、実際に電車も耐用年数が、税法上ですが約15年くらいだそうです、実際の運行は30年以上運用しておるわけですので、やっぱりそういうことを考えると、15年で価格は安いけれども、維持管理費が高い分もあるだろうし、それを15年でやったときと、あるいは30年使ったときはどうかということ。そういうとこの比較をしてもらいたいということを、会社のほうに上げてありますので、そこら辺を詰めた上での判断になろうかなというふうに思っております。

そして市のほうでは、なかなか細かな計算をしにくいですので、会社には今度、JRからの出向、あるいは専門の方が今度つくわけでありますので、それらのしっかりした試算をもとに情報をいただく中で、市としての立場で、また検討をさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

富山県のほうで収支予測をした、これがコピーなんですけれども、全車を新造した場合は富山県では120億円の試算が出ておるわけなんですけれども、こういう試算のことは市のほうでは知らされてはいないんでしょうか。新潟県のほうでは、新造したら全部で幾ら、1両ごとのあれはこの間示されましたけれども、こうなったら幾らになるということは示されていないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長(本間政一君)

経営計画の中での試算の中では、いろんなことを詰めただろうと思っておりますが、今後、会社ができる具体的に論議をする中では、そのような数値は実際には公表されておられません。今現在、そこら辺を詰めていきたいということです。先ほど言いましたように、費用対効果等をしっかり詰めたものを市のほうに情報としていただいて、それらを議会等の中で、あるいは市民の中に検討したものを市の意見として出したいという考えですので、今現在の中では会社のほうからは、そういう数値的なものは出ておりません。

それから富山県のほうも先般、担当課のほうと富山県庁、あるいは魚津市、あるいは黒部市のほうへ訪問しまして、それらの実態のことをお聞きをしてきました。富山県の場合はどちらかということ、県主導でかなりまとまっているような話ですが、実際はこれから会社を今後立ち上げるということですので、具体的な中身のことは聞けなかったわけですが、新潟県と、並行在来線の会社と、富山県のほうで、今後詰めていくというようなお話を聞いておりますので、そこら辺のことをまた詰まってきたら、お聞かせを願いたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今のお話でちょっと聞き漏らしたのかもしれませんが、隣の富山県の沿線自治体と協議をしたというのは、並行在来線の会社が協議をしてきたということ、それとも県が協議をしてきたということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

富山県といろんな関係でかわりがあるということで、市の立場として富山県、あるいは黒部市、魚津市を訪問して、向こうの情報なりを交換させていただいたということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

わかりました。

今のお話の中、恐らくディーゼル車のことばかりじゃなくて、いろんなことが話し合われたんじゃないかと思うんですけども、差し支えなければと思うんですけども、どんなことをさらに話し合われたか。

それと会社の経営上のメリット・デメリットと、糸魚川市、あるいは利用する糸魚川市民のメリット・デメリットというのは違うんじゃないかなと思うんですけども、そういったことの検証はいかがなものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

基本はやっぱり市民本位の形で、今後、会社のほうに話をしていきたいという考えであります。これまでJRが運行していたのを、三セク会社になる方針が決まったわけですので、そこら辺、嶋津社長も言うておりますように、やっぱり利用者の利便性を図ることが、第1歩だと言うておりますし、安心・安全な運行なり経営をしたいということ言うておりますので、やっぱりそこら辺は、しっかり見守っていかなくちゃならないというふうに思っています。

富山県のほうでは、まだまだいろんなことを富山県のほうで決めておりますが、黒部市、あるいは魚津市、それぞれ新幹線がとまる市と、とまらないところ等ありましたので、いろんな話が出ておりましたが、やはり糸魚川市とすれば優等列車等、今まであるものをどうするかということが非常に不安ですので、富山県の力を借りたり、あるいはそういうことを県のほうに伝えたり、あるいは並行在来線の会社に伝えることによって、糸魚川の利便性が高まるということにつながるんだろうということで、そういう情報交換をさせてもらったところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今、社長の言葉の中で、安全性の話が出ましたけれども、たしか対話集会においても、そういうやりとりがありました。11キロの頸城トンネルはじめこの北陸本線は、トンネルが非常に多いわけですね。恐らく6割か、それ以上あるんでしょうか、ちょっと私もよくあれですけども。

その日の対話集会の夜に、北海道のJR石勝線のトンネル内で特急が脱線、炎上するという非常に大惨事がありました。幸い死者はなかったというところでしたけれども、この特急電車はディーゼル車でありました。原因は、エンジンの力を台車に伝える推進軸が脱落したということでありまして、91年から全国で15件以上の破損、脱落事故が起きているというふうに報道等を見たらありましたけれども、改めてこの地域の特殊性といいましょうか、トンネルが多い、その中でディーゼル車の運行と。念の上にも念をとということで、安全についてどのように考えておられるか、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

嶋津社長のほうも、安全・安心な鉄道に努めたいということを役員会の冒頭、あるいは株主会の中でも、そのような発言をされておりましたので、それを基本としとるんだろうとと思っています。

それから、特に北陸本線についてはトンネル区間が多いわけですので、いろんなJRにお勤めの方等に聞きますと、やはりトンネルのどこ、あるいは筒石の辺ですか、かなり傾斜があって、一般の運転でも難しいようなところがあるんだよという、そういう話はお聞きをしておりますので、そういうことも、やっぱりいろんなことを並行在来線の会社のほうに伝えて、それらの上で中身を詰めさせていただきたいというような考えでありますので、実際に多くの方が働いたり、情報を持っ

ているわけですので、それらの方の意見を聞くということで、嶋津社長も今回の対話集会、これで2回目ですか、やってきたわけですので、そういうものを取り入れながら、最終、詰めていくことになるんだろうとっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今、副市長のお話に出ましたような、特に頸城トンネル、筒石付近のお話は、私も列車関係の方から心配の声が聞かれます。また、今回示された中では、今までツーマン体制のものがワンマン体制にという方向性も出されており、やはりその辺でも心配があるわけですが、ぜひ安全上には配慮していただきたいと思います。

もう1点、ディーゼル車で懸念されますことはCO₂の排出量、これがデメリットの中に挙げられております。かなりエンジン等も改良されて、少なくなっているんじゃないかとは思いますが、いろいろなとやはりそういうJR関係者から話を聞きますと、今、廃止になった特急のディーゼル車なんか通っていたときやなんかは、非常にトンネル内のばいじんがひどかったと。その管理が大変だったという話をよく聞きます。

先ほどから話に出しております頸城トンネル、真ん中に筒石駅があって、ジオパークも筒石駅に関連があるわけなんですけれども、そういった面でも、この運行というのはマイナスのイメージになるんじゃないかなという気がしますが、市としては考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

比較検討の中では、CO₂の話も出ておりますので、そこら辺のことは、今後詰めさせていただきたいなというふうに思っております。議員からいろいろな情報としてお聞きしたことを、また会社のほうへお伝えをして、市の意見というのは、また別のサイドの中で、まとめていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

よろしくお願ひします。

ディーゼル車にする原因といひましょうか、理由の1つが、やはりこの糸魚川の特殊性であります、北陸本線の特殊性であります、デッドセクションの問題があるわけだすよね。私が思うには、やっぱりこの交流・直流というの、ある意味、国策でされたものであって、今現在運行しているJRというものも、無償で譲渡されたものなわけだすから、今度、第三セクターとなつて、並行在来線が分離されるということになつて、これは地元には過大な負担を強いる、あるいは非常にいろいろな面で影響を与えるというの、不公平といひましょうか、そういう印象が強いわけだすけれど

も、こういうのはやっぱり改めて、与党合意の見直しが必要だと思うんですけども、その中でもこれは地元として、ぜひ国やJRのほうで何とか改善をしてもらう方向、あるいは支援をもらう方向というのは、できないものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

デッドセクションの問題については、やっぱりいろんな考えがあり、今後、詰めていかなきゃならんというふうに思っています。列車のこと、あるいは富山県のほうから糸魚川まで乗り入れた場合にどうなるのか、糸魚川市だけでなかなか方向というのは、すぐ決められないのではないかなというふうに思っております。そういうことから、まず電車等優先するものから決めて、デッドセクション等を詰めたいということの段階に進んでいくんだらうと思っています。

それから費用のことですが、やっぱり先ほど議員が言われましたように国策というか、一番最初のときの制度の中で、糸魚川にこの場所ができたわけですが、やはりそれらについては、今後、電気にしようが、ディーゼルにしようが、やっぱり貨物等が通る以上は、電車化が必要でありますので、デッドセクションというのは、当然、いずれかの形では残るんだらうと思いますが、それらの費用というものは、しっかり国から何らかの形でもらいたいということで、貨物貸付料、あるいは国のほうで、今回法律が通りましたが、鉄道・運輸機構ですか、あれらの余剰金等の1,000億円でしたか、並行在来線の赤字補てんのほうに回すということのお話が出てきたわけですので、そこら辺をしっかりと国のほうなりに伝えながら、経営の安定化のほうに回せるように、またいろんな面では、働きかけをしなきゃならんというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

地元でデッドセクションが前からあるということで、過大な負担はやはり不公平だと思いますので、ぜひ地元の要望として国や県、あるいはJRに対して、言ってもらいたいと思います。

今、貨物の調整金のお話をされまして、先ほどから収支予測の話もしましたけれども、この鉄道・運輸機構の剰余金の活用で、新たに10年間で1,000億円が示されたということ、先ほど副市長は言われたんじゃないかと思うんですけども、この対話集会のやりとりの中で、これは議長が発言された中であつたんですけども、北陸本線は稼げる路線だということに対して社長は、貨物の線路使用では解消されないという発言をされておりましたけれども、具体的にその根拠、あるいはその調整金というのは、大体幾らぐらいと予測しているのか。そういったことを把握されているか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

お答えします。

貨物調整金は、これは前からあった制度なんですけども、その負担割合が貨物に比べ、いわゆる旅客のほうに過大な負担ではないかということで、今、これは見直しの中で徐々に改善されているということで、この辺の具体的な数字は、まだうちのほうははっきりしてないので、これはすべて予想の中で、例えば年間十数億円とかというのは言われておりますけれども、これはもうはっきりした数字ではありません。

この割合が、例えば新たな制度の中では、貨物の今までは本数だけなのが、要するに貨物の1両、1両の編成の割合によって、その負担もできるだけ貨物側に持たせるというような新たな考え方がとらえられたということで、当然、北陸本線は貨物が非常に多く通っておりますので、その分、例えば旅客の車両をある程度適正なものにすることによって、より多くの貨物調整金が、要するに北陸本線に割り当てられるというような試算の中で、これはいつとき相当な額も言われておったんですけど、今のところはっきり毎年幾らというのは、まだ市のほうには細かな数字としては上がっておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

市のほうにはまだ細かい、あるいは詳しい数字は報告されてないということなんですけど、きょうのタイムズ紙で上越議会のほうの一般質問を見ておりましたら、やはり同じような質問をされている議員の市長の答弁でも、やはり貨物調整金では解消されないというふうに書いてありましたが、これもやはり予測の中で言ったというふうなことになるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今、泉田知事が、以前、並行在来線の経営について懇談会等の中で言われたときには、大きな柱として貨物調整金と、それから新幹線の貸付料の関連、こういうものが知事の主張どおりに来れば相当大きな額が、並行在来線にはね返ってくるというようなことはお話がありましたけど、これはあくまでも今のところ予想の段階でして、それについて北陸本線に幾ら来る、それから、また貸付料が幾ら還元されるというのは、まだ正式な形では入っておりませんので、上越市のほうも当然、北陸本線を持ってるわけですから、そういう中でそういう話はあるけども、まだ明らかにそれが数的に毎年幾ら、例えば30年で、これだけ確実に来るとというのが情報として入っておりませんので、それは推測だということだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

じゃあ次に、泊駅での折り返しと相互乗り入れのことについてなんですけれども、対話集会等の

資料では、県境をまたぐ利用者が少ないということではありますが、少ないけど利用するほとんどは、中心は糸魚川市民じゃないかと思うわけであります。

実際、富山駅まで大学に、あるいは病院に、あるいは通勤に通っている市民が大勢おられるわけであります。糸魚川市としてはやはりこの点を考慮に入れて、折り返しのことについて考えていかなきゃいけないんじゃないかなと思うわけですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

お答えいたします。

富山県側への乗り入れの区間が、泊駅までという考え方が示されておりますけれども、これについてやはりそれを越えて、その先の都市まで通勤通学の実態があるというお話は、対話集会の中でもそういうご意見が出ておりまして、そのような実態があるというふうに思っております。

この場合に泊駅で折り返しという形になりますと、乗りかえの利便性ですとか、それから乗り継ぎの時間とか、そういったものについて影響が出ますし、もし不便になればなおさら利用が減るということも考えられます。この並行在来線の利用を拡大をしていくためには、やはり富山県側の行き来をより便利にしていくというふうな形をとっていくべきだと思いますので、この泊駅で、必ず全部が折り返すという形ではなく、例えば時間帯ですとか利用の状況によって、それよりも先の駅まで乗り入れるというふうなことも、当然、求めていかなければならないと思っておりますし、会社のほうでも、利用実態の調査をやったというふうなことでございますが、その利用の状況、それから市民の皆様のご意見等によりまして、必ず全部折り返すということではなくて、その先の乗り入れについても検討をするというふうなことを言われております。

そういうことから、この富山県側からの誘客とか、あるいは通勤通学客の利便性を考えて、その先の方向にも乗り入れというのは、やはり検討していただきたいということで、会社にも要望してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひそのように話し合い等、また要望を上げていただきたいと思っておりますし、期待をしたいと思っておりますが、先ほどの副市長のお話で、沿線自治体との協議の話もありましたが、ぜひその辺のことも念頭に置いて、恐らく沿線自治体のほうでも糸魚川のほうへの乗り入れについて、大きな関心を寄せているんじゃないかと。また、その辺の利便性についてどう思っているのか、その辺の情報というのは、いかがなんでしょうか。沿線自治体からの糸魚川方面への乗り入れ、あるいはこちらのほうで、泊駅での折り返しという方向性がある程度出されたことに対して、沿線自治体での反応といましようか、そういったことがあるものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今、泊駅、それから糸魚川駅での富山県、新潟県の乗り入れというのは、まず、その駅で乗り入れが可能な駅で、一番それぞれ富山県では糸魚川が一番近いわけでありまして、新潟県側では泊駅が一番近いという。必ず折り返しですので、そういう施設というのが必要になるということが、第1点あります。

それから先日、魚津市へお話、情報交換に行った際にも、魚津側でも糸魚川から高校へ通っておられる、そういうのも把握しておりますし、その辺については大事にしたいということでございますので、その辺は今度は富山側として、富山県の中でどこまで伸ばすという話も、これからまた魚津市なり、また黒部市なりといろんな情報交換をする中で、お互いに連携した中でそれぞれの。

今、うちのほうは新潟県と株式会社ですけども、富山県は今のところ、まだ富山県ですので、県に働きかけていただきたいということも申し合わせなり、協力してやっていきたいと、こういうふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひ沿線自治体、あるいは隣県との連携も必要かと思っておりますので、その辺の協議のほうをしっかりとお願いしたいと思っております。

また、それと関連してくるかもしれませんが、次の優等列車のことにありますけれども、このことについて対話集会では、あくまでも新幹線と並行して優等列車は廃止されるのであって、新潟から新井までの「くびき野」と、新潟から糸魚川までの特急「北越」は存続できるものと思うと。さらに、県とともにJRに要請はできるものと思うという発言が社長からありましたけれども、今まで県からは、そのような話といいましようか、見解はなかったように思うんですけれども、このことの受けとめ方は、どのようにされているでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

当市も新潟県等へ、あるいは新潟方面へ行くには「北越」が一番利便性が図られているわけですので、その存続ということは市を挙げて言ってきたわけです。そのことを強く言うことによって富山県側も、同じような考え方に乗ってきてきているのかなというふうに思っています。

いずれにしても、これからも新潟県と並行在来線の会社とともに優等列車の存続について話をし、それらが新幹線の停車本数等につながっていくんだらうと思うんです。それが糸魚川市民の利便性につながるんだらうと思っています。今後またしっかり詰めていくことで、努めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひそのようにお願いしたいと思いますし、しっかり県のほうからも、そのように存続に向けて動いていただきたいと思います。

もう1点、嶋津社長の発言のことなんですけれども、これも議長との対話な中であつたんですけれども、北陸本線の廃線の発言がありましたけれども、5月31日付の糸西タイムズ紙にも、私は先行き廃線になってしまうのではないかと、危機感を持っていると掲載されておまして、非常に不安に思う市民がいるわけなんですけれども、この発言について市では確認、あるいはどのように対応、認識されているか伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

対話集会の後半のほうで、そのような発言をされたということで、嶋津社長には少し言葉が前に進んでいるんじゃないですかということで、その場で少しお話をさせてもらいました。やはり経営全体のことを考えて、少し前へ出た話だなということで、自分でも反省という言い方がいいかは別としまして、大変心にとめておりました。

いずれにしましても、やっぱり300億円から600億円の赤字で出るわけですので、いろんなことを工夫しながら、それらを努めなければ心配だということ、表現されたんだろうというようなことを話をしておりましたので、そんなことがないように、しっかり社長にもその後もお話をしましたので、健全経営、あるいは市民の利便性のために、引き続き努めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

やはり立場が立場、あるいはその場のTPO等をいろいろ考えた中で、やはり会場にいただれもが、不適切な発言だったんじゃないかなと思いつつながら帰ったわけでありまして、ぜひ今後気をつけていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

大糸線の利用促進の取り組みについて、先ほどお答えいただきましたけれども、報道等に沿線駅の駐車場整備等、あるいは看板の整備等ありましたけれども、そのことについての対応というのは、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

大糸線につきましては、駅によっては人家が連たんしてるわけではないので、車で来て、パーク・アンド・ライドというほどの規模にはなり得ませんが、それでもできれば駅まで車で来て、

利用促進を図っていただきたいというような、そういう考え方から、これは昨年度の大系線を守る会の要望の際も、そういうような形で要望がなされたので、この辺、駅の今構造を見ながら、若干もう少し舗装ができるようなところは舗装し、また、区画線なりを引いて案内看板等を設置して、10台、20台というわけではなくほんの数台、場所によっては、そういう形になりますけど、今ある土地の中で、もう少しわかりやすい利用ということの中で、そういう予算取りをして進めたいと、そういうことでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中一君）

観光客の駅からの2次交通の確保という面においても大事な事かなと思うので、ぜひ地元の話し合いの中で進めていっていただきたいと思います。

また、3月にダイヤ改正されましたけれども、かえって利便性が悪くなったというのも聞きますが、そのことについてはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

この3月のダイヤ改正で、1本だけ少し上り電車を遅くするというような形で、少し直させていただきました。この大系線につきましては、本数をふやせる今のところ状況ではなので、例えば1本を構うと、それによって便利な人もおられると思いますし、また、かえって今まで使った方々には、物足りないというのもあります。

その辺、都会のように何本か出るところであれば、いろんな融通性もありますけども、これは大系線だけではなくて北陸本線との接続も含めた中で、要望があったのでやってみたということで、また、これは一度決めたらということではないので、またお話をお聞きしながらJRのほうへ申し入れなり、こういう利用状況を見ながら、また次のダイヤ改正時には、やっていただいたけども、こういうというような情報のほうも提供してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中一君）

よろしく願いいたします。

相変わらず南小谷駅での接続等も、あんまりよくありませんので、そちらのほうもよろしく願いしたいと思います。

次に、農業のほうの関連についてなんですが、猛暑対策。

糸魚川市では、影響はないという答弁でありました。稲づくりに影響はないかもしれませんが、今、計画停電等の心配の中で、この電力不足が8月下旬から9月中旬にずれ込んでいった場合、稲刈り時期に重なるわけなんですけれども、乾燥機の使用等においては停電が発生した場合、品質に

大きな影響を与えるという心配の声が聞かれますけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

今ほど議員さんがおっしゃられましたように、乾燥機の利用に計画停電が影響するのではないかとということでございますけれども、現在、新潟県が節電戦略の中で、ピークカットの期間が7月1日から9月9日までと。特に時間帯については、午前9時から午後8時まで、この期間を中心に節電に努めて、ピークカットをしようというような動きでございます。

今の当地域の稲刈りの乾燥の主体的な期間からいくと、若干、ずれがあるのかなというふうに思っております。通常のパターンでいけば、大きな影響はないのではないかとというふうに考えるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

大きな影響はないんじゃないかということですが、私はちょっと心配であります。よろしく対応のほうを、お願いしたいと思います。

それから2年続きにもしも猛暑となったり、あるいは異常気象等になった場合、新聞報道では、県ではホームページを充実して、きめの細かい情報発信に努めると言っております。具体的に、地域ごとに生育状況というのは違うわけなんですけれども、どのようにそれらを把握して生産者に伝達し、指導をしているのか、その辺の対応をされているのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

昨年の猛暑の影響で、水稻等の栽培に大変な猛暑の影響があったわけですが、今年度は県のまとめました影響の分析をいたした結果に基づきまして、当地域においては、JA、農業共済組合、それから県の農業普及指導センター、市が連携いたしまして、地域に合った栽培の状況を把握しながら、県の栽培指針に基づいて適切な情報を提供して、栽培管理をしていただくということにいたしております。

情報の提供の方法につきましては、紙ベースによる情報、あるいは広報無線、あるいは携帯メールをJAひすいで配信するというような仕組みもでき上がっておりますので、そういう手段を使いながら栽培の情報提供を的確にしていきたいと思いますというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番(田中立一君)

次に、ブランド力の向上でありますけれども、エコライス米の取り組みに力を注いでいるというようではありますが、エコライス米の作付の状況はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長(金子裕彦君)

エコライス米の栽培につきましては、JAひすいが今年度から本格的に全農家に対して、そういう栽培方法でいこうということで呼びかけをいたしております。

栽培面積については、細かい数字はちょっと把握しておりませんが、そういう形で全市的にそのように呼びかけておりますので、ほとんど多くの方が、この栽培方法によって取り組んでいただけるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

ほとんどじゃあ5割減々の取り組みをやっていくような指導ということになるかと思うんですけども、5割減々は実際、何割ぐらいの農家の人たちを目標にされているんでしょうか、どのぐらいの農家が目標ということになっているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長(金子裕彦君)

どれぐらいの面積ということでございますけれども、できるだけ多くというようなことで、半分以上の作付の面積の方からは、ぜひそういうような5割減々の栽培に取り組んでいただくというようなことで、進めておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

じゃあ次、戸別所得補償についてなんですが、ちょっと東日本大震災の関連になるわけですけども、東日本大震災で被災して作付できない米の生産数量目標の一部を、新潟県は約1万トン肩がわりするということでありまして、新潟県では19市町があったわけなんですけれども、糸魚川はゼロと。このことについて建設産業常任委員会のほうで、口頭で報告いただきました。そのときは納得といいましょうか、理由はわかったんですけども、そのことに至った経緯といいましょうか、糸魚川市は調整のほうの肩がわりをしないということになった経緯というものは、あるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

23年米の作付の関係でございますけれども、既に生産目標数量ということで当市に割り当てられた面積と、農家の皆さんが23年米を作付したいということでのご希望の数値に差がありまして、作付をしたという面積のほうが上回っておりましたので、その数値についてはJAひすいと協議の結果、とも補償の方式で生産調整をしようではないかということで、実施をいたしておるところでございます。

そういう動きの中で、今ほどおっしゃられました東日本大震災の影響により作付できない面積を、他の県で肩がわりするというような状況もあるわけでございますが、それも単純に肩がわりではなくて、移動するに当たって10アール当たり数万円程度の金額を支払った上で、作付の場所をもらうというような形でございまして、とも補償の流れの中で考えているのと、なかなかうまくかみ合いませんので、その時点ではJAひすいと協議の結果、当市においては当初のとも補償の方式で、生産調整を実施することとしたわけでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

わかりましたし、意味はわかるんですけども、このことについて改めて聞きましたのは、生産者のほうから、このことについてはマスコミ等で随分報道されておったわけなんですけれども、いつ支援センター、あるいは市のほうから、この話があるんだろうとずっと待っていたという声が聞かれたもんですから、改めて聞かせてもらいました。

生産調整のその話もわかるんですけども、生産者にとって、転作しなくても戸別所得補償制度に加入できるわけでありまして、この金額は昨年度と変動部分が同じなら約3万円、今、課長がされたような調整金を支払ったとしても、損はしないという感覚も実際あるわけなんですけれども、そういうことで、一方で、被災者支援に結びつくならという気持ちもあったようです。

そういうことで、そういう結果に至った経緯と、生産者への伝達といいましょうか、コンセンサスを得る努力といいましょうか、そういうものが必要だったんじゃないかなと思って聞いたわけなんですけど、その点はいかがだったでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

今ほど議員のお話の中に、戸別所得補償制度は生産調整と関係なく加入できるというようなお話でございましたけども、そうではなくて、戸別所得補償制度の対象になる方は、生産調整を実施を

しなければならないということでございます。

それで、とも補償を実施する中におきまして農家の皆さんにはお話を申し上げてきたところでございますが、さらに詳しい状況につきましては、現在、戸別所得補償制度の加入の申請受け付け等を実施いたしておりますので、今後の中で、今、お話のあったような状況についても、農家の皆さんにお伝えする努力をしてみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

やはり生産者のほうから、そういうコンセンサスを得られてない話を聞くとどうかなと思うわけでありまして、その辺、ぜひ対応していただきたいと思えます。

またもう1点、米粉の需給のことについてですけれども、米粉の需給のバランスといたしましうか、在庫状況等はどことなくあいなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

米粉の在庫の詳細な状況については、ちょっと承知していませんけれども、県内全体的にはおおむね在庫の状況が少ない状況できておるといふうなことで、情報としてお聞きしておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

いろいろと米粉のことについては、ぜひ進めてもらいたいと思う一方、在庫があるといううわさも聞くわけでありまして、心配のないように対応をまたお願いしたいと思います。

次に、農地・水・環境保全向上対策の取り組みで、先ほど答弁いただきましたけれども、2階建ての部分のうち直接支援交付金ですか、環境保全型農業直接支援対策、今年度は移行期間というわけなんですけれども、当市は実施できないというふうに聞いていますが、実際、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

環境保全型農業の直接支払の関係でございますけれども、今年度から新たに取り組みがなされた制度でございますが、当地域に当てはめたときに、条件となる要件を三つ以上クリアしなければならないということになっておりますが、それを当てはめた場合に、なかなか取り組める項目がうまくクリアできないというようなことから、関係する農業団体の皆さんと協議をする中で、次年度に

向かって取り組みをしていこうということで、現在、協議をして進めておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

取り組みのほうをよろしくお願いします。

ことしも、どのような天候不順な環境変化があるかもわかりませんが、おいしい農作物が提供されるようお願いしまして、一般質問を終わります。

ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を11時35分といたします。

午前11時23分 休憩

午前11時35分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。現在、1つの質問に1時間30分かかっております。議員の発言が30分に制約されていることから、答弁側に、1時間以上の時間が費やされているということでもあります。

丁寧にお答えいただくのは大変よいことではありますが、ひとつより要領よく、簡潔に答弁をしていただきますよう、議長よりお願いを申し上げます。

それでは、次に、中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。〔11番 中村 実君登壇〕

11番（中村 実君）

おはようございます。

清生クラブの中村 実です。

本日は、災害対策について一般質問を行います。質問の前に、東日本大震災や翌朝発生した長野県北部地震の犠牲となられた方々に哀悼の意をささげ、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げて、質問に入らせていただきます。

1、災害対策について

3月11日に三陸沖を震源に国内観測史上最大のマグニチュード9.0の地震等による「東日本大震災」が発生し、地震や津波、火災などで多くの死傷者が出てしまいました。

私は今回の東日本大震災の発生の2日前に、地震による津波災害や焼山火山、地すべりなどについて一般質問を行い、行政の考え方について伺いましたが、糸魚川市では、洪水や地すべり・雪崩など多くの災害を経験しておりますが、対策に関しては遅れているように思われます。

今回の東日本大震災や、翌朝発生した長野県北部地震を見て、今日までどのような対策を行ってきたのか。

今後、糸魚川市民の生命財産をどのように守っていくのか、次の点について伺います。

- (1) 東日本大震災後の、市の防災対策の変更事項は。
- (2) 津波対策について。
- (3) 自主防災組織の必要性について。
- (4) 各マップ等の見直しについて。

以上、4点。3月の一般質問の続きになりますが、津波は市民の関心の高いところでもありますので、市長並びに山口消防長のお考えを、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

中村議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、現在、国及び県において、防災基本計画と地域防災計画の見直しに向けた検討を進めているところであります。

市といたしましては、それらとの整合性を図り、地形など、また地域特性を考慮した中で、見直しをしていく予定であります。

2点目につきましては、国、県との整合性を図りながらも、市としては今できる対策から取り組んでいくことが重要ととらえ、まずは海岸線近くの公共施設に海拔表示を設置いたしました。

今後とも震災、津波対策に関する防災会議等を開催し対策を協議するとともに、地区懇談会や避難訓練の実施など、津波対策への啓蒙・啓発を積極的に行い、住民への意識づけをしてまいります。

3点目、自主防災組織は大変重要な組織であり、この必要性は高いものと考えておりまして、進めてまいりたいということでございます。

4点目につきましては、それぞれの被害想定調査の結果が変わってきた場合には、必要に応じて見直しをしてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

まず、最初に津波対策について伺いたいと思います。

4月の広報には、糸魚川市は常に津波の危険性にさらされているということで、津波は地震発生後、あっという間にやってくるというふうにここに書かれております。

津波の速さは、水深2,000メートルで時速500キロ、10メートルの浅瀬でも時速36キロ、今回のように陸上に津波が上がったとしても、大人が全速力で走るほどのスピードがあり、人を襲うというふうに言われています。

また、河口や河川部では予想以上の津波が押し寄せたり、津波が川を遡上する。そのようなときは、なるべく早く標高の高いところに避難するか、頑丈なビルの3階以上に逃げることが必要になりますが、今まで何度かお願いしてきた海拔表示板を設置していただきました。少しは市民への啓発につながっているというふうに思いますが、現在設置した74施設中の34施設が、10メートル以下のところにあります。その中に、保育園や小学校など11カ所が含まれております。担当課としては、この10メートル以下の施設や、特に保育園、小学校など、どのような説明を行ってきたのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

10メートル以下の学校、保育園等には、私どものほうと教育委員会こども課のほうにお願いをいたしまして、それぞれ施設の状況に応じたご検討をされるようお願いしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

この海拔表示板の取りつけのときに、学校とか保育園等はいろんな教育関係からの話もあるかと思いますが、施設、公民館とかそういうところに設置した場合は、その施設の人たちにお話をして設置をしたのか。当然、そういう設置があれば、地域から何か要望等がなかったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

今回設置させていただいた場所につきましては、公共の避難所に指定されている場所について設置させていただきましたし、それぞれの場所について設置するときに、それぞれの代表者、地区の自主防災、あるいは地区の代表者の方々にお話をして設置させていただいております。

なお、その中で、特にその段階での要望というのはお聞きしておりませんが、そのほかに、これからそういうお話を各地区ごとにしましょう、懇談会をしましょう、それから方法を検討しましょうということでご案内を差し上げ、そういうお話はさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番(中村 実君)

10メートル以下の避難所の場合は、津波警報が発令された場合には、避難所としては適してないというふうに私も思っていますし、例えば、小泊の中瀬館の場合は、海拔3.5メートルというふうに表示されて、大変低いところにあるわけですが、避難所ということではありますが、津波の場合はどこへ避難すればよいのかという。まず、マップには10メートルラインが引かれているということで、一応10メートルラインには避難しなければいけないという認識はあるわけですが、実際には10メートルが、この地域でどこにあるのかというのがよくわかっていないというのが、私たち住民の意見であります。そういったもののお話があったのか、また、説明をしたのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長(山口 明君)

お答えいたします。

小泊の中瀬館の場合3.4メートル、あるいは10メートル未満のそういう施設の表示につきまして、やはりその地盤面を、いわゆる地形図から取り出した海拔表示をさせていただいております。したがって、その付近がそうであるよというご認識をまずいただくこと。それが今回の1つの大きな目的でございます。

それで、じゃあどこに逃げるかということは、ハザードマップのほうに10メートルラインを出させていただいておりますが、やはり議員が以前にもご指摘いただきました、地域の方たちは、なかなかご理解いただけないということで、先ほど申し上げました各地区ごとのそういう10メートルはここがいい、あるいはここに逃げたらというお話を一緒にさせていただく。これは私どもがご指定申し上げるということよりも、やはり「津波でんでんこ」というのが、三陸のほうにも名前が残っているように、やはり地域、地域の実情に応じた一番逃げやすい高台を、一緒にご検討させていただくということで準備しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

中村議員。

11番(中村 実君)

そのとおりであります。一応10メートルラインというのは地図にも載ってますけど、やはり大変わかりづらい。その辺をやはり話をして、この地域では、この辺が10メートルラインですよということをはっきり話をしないと、やはり地域でもどこへ避難すればいいのかという避難路にしても、なかなか読みづらいものがあるんじゃないかというふうに思っています。

海拔表示板を設置してある74カ所の中でも、能生青年の館は海拔が一番高く、この74の中でも海拔75メートルということになります。今回、岩手県宮古市の津波高が19メートル、遼上だけは37.9メートルであり、糸魚川市として想定外を考えて、75メートルというところにも設置したのかどうかわかりませんが、今のところ37メートル以上の表示板は5カ所、この中にあります。

今回、海岸に近い施設に設置をするということですので、そこも当てはまったのかもわかりませ

んが、やはりその辺は行政的な考え方で、正直言って無駄ではないかなというふうに私は思っております。もう少し、75メートルのところに設置するんならば、海岸の近くじゃなくても設置する場所があるように思うんですが、その辺の考えはどうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

1点、先ほどちょっと申しおくれましたが、10メートル表示、あるいはそれ以上の表示についても、これから、この辺がそうであるということは表示する予定でございます。

それから今75メートル、無駄ではないかということでございますが、とりあえず、取り急ぎということで、先ほど申し上げました避難所すべてに、海岸地区のほうの避難所ということで出させていただきました。

また、今、議員がおっしゃるように、ほかの施設、ここが適当じゃないかという部分については、随時ふやしていく予定でありますので、またご意見を聞きながら、そのようにさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

私は大変後でもいい場所だというふうに、これ思っております。幾ら海岸から近いといたって、75メートル襲ったら大変なことで、市長の根知でももしかしたら津波が襲うかもしれない、そんなふうに思います。

そうなると西能生地区公民館の場合は、海拔17メートルということで表示されていますが、能生川沿いということで、県道より一段低いところに公民館があるということで、津波が川を遡上したことを想定すると、大変危険な避難場所だというふうに私は思っています。

前回の災害でも、川を遡上した津波により多くの人たちが犠牲になっておりますが、このように17メートルだから安全だという逆に先入観が、危険につながるのではないかというふうに私は思っております。やはりそういったときにいろんな事態を想定して、その地域の人たちにも津波が遡上した場合の危険性を周知していただきたいというふうに思いますし、このような施設がほかにも川沿いにあるのか。また、このような施設、遡上した津波の対策はどのように考えているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答え申し上げます。

例えば海川沿いのアクアホールだとか、ほかにもございます。遡上の危険性というのは、やはりいろいろありますし、それはいわゆる海拔だけでは解決できない問題があると思いますので、先ほど来、申し上げています各地区のその状況に応じた避難、あるいは正しい場所といたしますか、適切

な場所をそれぞれその中で探しながら、早目に探して、そこに逃げる方法を一緒に、これから懇談会等々で行わさせていただきたいというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

そうすると、やはり海拔の高い、今回必要ないと言うと語弊がありますが、後でもいいようなところに設置するのならば、海岸から離れていても津波が遡上するようなところに、早急に掲示板を設置していただきまして、周知していただきたいというふうに思っておりますし、今後、防災組織や総会などで指導していくということですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

先ほども宮古市の話をいたしました、宮古市では37.9メートル、大変大きな被害を受けておりますが、その津波の中でも、ビルや高台などに避難した人たちは、運よく助かっています。いかに避難ビルが有効なものかということは、前回は申し上げさせていただきました。

そういったことで、糸魚川市内には避難ビルに使える3階建て以上のビルが少ないというふうに思ひますが、個人のビルも合わせまして何件ぐらいを把握しているのか伺ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答え申し上げます。

3階建て以上の、いわゆる有効な避難ビルにつきましては、現在件数については把握しておりません。各地区のそれぞれの中で有効なものを、今抽出していただいておりますので、それを集計していきたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

早急に数をつかみ避難ビルとして指定できるのか、また、強度があり、実際に使用できるかどうかというの見分けていかなければいけないというふうに思ひますし、上越市では、もう既に地域防災計画の見直しや、民間を含めた中高層ビルを、津波避難ビルとして指定する方向で動いております。民間の建物は、すぐに津波避難ビルとして指定できないとは思ひますが、市の施設等は、早急にできるのではないかなというふうに私は思ひます。

前回は質問いたしました、能生事務所を津波避難ビルとして使用できないかというお話をいただきましたが、その後検討したのか、また、結果がわかれば教えていただきたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

津波避難ビルの指定ということについては、正確に指定という形をとっておりません。これから当然、先ほど申し上げましたように行うわけですが、公共施設につきましては、もう既に緊急時には、必ず使っていただけるというふうな方向で動いております。また、これは各区長様、あるいは代表者様にご連絡を差し上げた中でも、各地区の中で、それはもう見つけてくださいというふうなお願いもしております。

それからもう1点、公共施設、あるいは民間施設であろうと、それがそうであるならば積極的に依頼をし、指定に向けて動いていく考えであることをお伝えします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

能生事務所の場合は、あの辺も海に近いということで、高台に住民が逃げおくれた場合に避難する場所は、あの辺が一番いいのかなというふうに思いますが、まだ住民の中でも、実際にそういう話を聞いたということも、どうしたんかねという話は聞いてますけど、そこへ避難すればいいという話も聞いてない人もいますし、私が見た中では屋上へ上がる避難階段にしても、まだよく整備されてないというふうに私も思っておりますので、ぜひその辺も検討していただきたいと思えますし、夜の場合は、だれが、どういうふうに鍵を開けて、避難させるのかということもよく周知し、理解をしていただきたいというふうに思っています。

既に上越市の場合は、県を上回る最大5メートルの津波を想定したマップを作成しております。避難方法や誘導方法も見直して、県内でも津波による被害を大きく見積もっているというふうに報道されております。

上越市の危機管理企画課では、最悪の最悪を見込んだ想定で取り組みを進め、専門家からは過大だと言われていますが、今回の震災で想定外の被害をイメージする重要性が増した。また、今後は今より大きな被害規模の備えを検討していく必要があるというふうに、上越市ではもう既に動いております。

糸魚川市でも県の対応だとか、地域の避難ビルの状況等を待つことなく、独自の防災対策を早急に進めていく必要があると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答え申し上げます。

たしか先週の土曜日の報道だったと思いますが、津波対策法が成立したという報道がされておりますが、当然それに整合性をとりながら、多分いまだかつて日本にはない、また新たな法律の動きの中で対策をしていくことだというふうに期待しておりますし、今、議員がおっしゃったように、当市といたしましてもできることから、それを早急に。まずは先ほど申し上げましたように地区の中で、あるいは自分を守る自助・共助の中で逃げる方法等を、早急にそれぞれの地区の中でお話

させていただいたりし、適切な方法はまずは逃げる。そういうことで、どこがいいのだろうかというような、そういう懇談をしながらやっていくということが早急だと思いますので、そのように進めていきますし、現在でも既に話し合いが、各地で相当な数行われてきております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

市内でも震災後に、筒石地区や能生地域、また、大町区会館でもいろんな話し合いとか、避難訓練がもう既に行われてきております。大変重要なことだというふうに私も思っております。

9月9日のフォッサマグナミュージアムの竹之内学芸員の「日本海の地震と津波」の講話の中で、名立から能生にかけて断層があるという、私も初めて伺ったんですけど、そこで地震が発生すれば中越地震並みの地震が発生して、約5分で津波が到達するのではないかというような話もありました。

また、糸魚川沖100キロぐらいで地震が起きた場合には、津波は20分ほどで、この糸魚川市を襲うというような話もあったということで、糸魚川市としても、これは決して他人事ではなく、早急な津波対策が必要だというふうに私は思っております。

あの講話の中で、市長並びに部長さんたちも出席していたというふうに思いますが、どのように津波対策が必要なのか、どのように感じたのか、わかれば教えていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本当にこの東北大震災は海を持つ自治体といたしまして、危機的感覚が非常に高まっておりまして、危機意識を私も本当に身をもって感じているおるわけでありまして、

そういう中で、今、私がやはりやらなくちゃいけないことは何かというのは、今、消防長に指示を出したところは、やれるところをすぐやれと。そしてまずは、今、議員ご指摘いただいたように、我々の地域ではどのような事柄になるのかというのを把握しながら、それに対してどう対応できるかというのは、やはり行政だけでできるものではないので、その辺をきめの細かな、そしてまた地域の皆さんがそれを、もしアクシデントが起きたときに、対応できるようなものをつくらなくてはいけないだろうと思っておるわけでありまして、それを早急に地元の皆様方と詰めていくことを私は指示をさせていただいておりますので、それを早い時期にまとめて、今までみたいにハザードマップをつくったからよしということではなくて、そういうきめの細かいものをつくりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

やれるところから、すぐに着手していただきたいというふうに思っておりますし、市民の安全は当然であります。糸魚川市を訪れる、これから来る海水浴客や、またジオパークのお客さん。また、土・日になれば私たち小泊の防波堤にも、鈴なりの釣り客が来ております。また、釣り舟にも年間に1万人近い人たちが訪れております。

そういう人たちは長野県とか、そっちの人が多いのだと思いますが、津波に対しての危機感が、薄いのではないかというふうに私は思っております。そういった人たちが、いざ津波が発生したときにどうすればいいか。当然、自分のことは自分で守るという心構えが、それは当然必要だと思いますが、このような人たちへの津波警報が発令された場合の避難誘導方法、その辺も考えているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

観光客への、いわゆる市民以外の方々への誘導方法ですが、これは現在も行っていることでございます。当然、防災行政無線、海岸のところにも設置させていただいておりますけれども、できるだけそれが網羅できるよう、聞こえるような配置の方法にしております。

あわせて、やはり消防団員、あるいは警察官等の広報しながら、そういう市民以外の方にも伝達するような方法は、現在も行っておりますし、これから行ってまいります。

なお、意識づけの問題では、やはり表示板とかそういうことも津波があるよということは、今後やはり出していく必要はあるかなというふうに考えております。

議長（古畑浩一君）

中村議員の質問中ではありますが、ここで暫時休憩といたします。

昼食時限のため再開を13時といたします。

午後0時02分 休憩

午後1時00分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

看板を早急に立てていただけないかということで、なるべく海岸に近いところというよりも、危ないところから優先的に立てていただきたいというふうに思っております。

次に、地震を想定した避難訓練が根知小で行われたということで、保護者や地元住民も出席し、自然災害に関する学習も開催されたということでありますが、市内できょうまでに、何校の学校で避難訓練が実施されているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

5月末時点で全体で17校、6月に入りましてから残りの5校、全部で22校、小・中学校では避難訓練を終えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

残り5校ということではありますが、今までやった17校、地域によっては地すべりや噴火、洪水、いろんな訓練が必要だと思いますが、この17校のうちで、いろんな地域に合った避難訓練を行ったのか。今回の場合、特に地震に対しての避難訓練だけだったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

その学校の置かれている環境によって、全部が地震・津波に対する避難訓練ということではなかったようであります。特に、1年間の計画の中では、最も学校の中で危険とされる火災についての避難訓練をやりながら、地震が起こった場合も含めて避難場所を確認した上で、もし地震で津波が来た場合はこう避難するというような指導をしたというふうに、地震に伴う津波も絡めて計画的にやったということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

地域によって、いろんな訓練が必要だというふうに私も思っております。やはり地震、また地域によっては地すべりと、いろいろあるわけですので、その地域に合った訓練を、これからも行っていただきたいと思っておりますし、先日、保坂議員の答弁にもありましたが、防災教育は、子どものころからやっていくのが一番いいというふうに話がありましたが、私もそのとおりだというふうに思っておりますので、一生懸命頑張ってもらいたいと思っております。

山古志中学校の3年生が、被災体験を後輩に伝えるということで、自分たちの体験をもとに制作した映画をお借りし、糸魚川市の小・中学校の防災教育に役立てられないかということで、私、

3月に質問をいたしました。そのときの覇本こども課長の答弁では、糸魚川市内の小・中学校でも防災教育に取り組んでいます。できれば長岡市の教育委員会を通し、借用が可能なら市の校長会で話をし、防災教育の一環として活用したいという答弁があったわけですが、その後、どのようになったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

今お話がありました山古志のDVD、「故郷、山古志のキセキ」というものであります。昨年度末、教育委員会を通じまして要請をいたしましたらDVD1本、糸魚川市に寄贈するというので、こちらへ届いております。2学期の防災教育に役立ててもらおうようダビングをしまして、小・中学校に1本ずつ配布をいたしまして、防災教育に役立ててもらおうと、そう考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

ぜひ教育に役立ててもらいたいというふうに思います。

今回の大震災では、海岸から5キロ離れた小学校でも津波に襲われて、児童の7割が犠牲になったという学校もあります。新発田市の藤塚小学校では地域の浸水予報と、学校周辺の標高を学び、実際に海岸まで歩き、安全な場所の確認を子どもたちと一緒にしているということでもあります。

糸魚川市でも海岸に近い学校や、標高の低い通学路があるかと思いますが、学校での避難訓練はやってると思いますが、津波とか、そういうのに巻き込まれるおそれのある通学路での避難訓練等、やっているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

先般の質問で、学校での避難訓練については、園では毎月1回、それから学校では年3回というふうに計画づけてやってもらっております。しかし、通学路についての避難訓練は、まだ実施しているということを聞いておりません。通学路は非常にいろんな危険がつきまとうわけですが、今後の課題として検討していきたいと、そんなふうに思います。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

学校ではどこでもやってるかと思うんですけど、やはり海岸沿いには、非常に危ない通学路もあります。津波だけではなくて、例えば地すべりだとか、雪崩とかという場所もあると思うんで、そういうところを子どもたちが実際に歩いて、目で見て調べて、体で体験しないと、なかなか身についてこないのではないかなというふうに私は思ってます。

前回も質問いたしましたが、なかなか学校でそれに対応していくというのは、非常に難しいかなというふうに思うわけですが、そこで家庭のほうにそういう案内を出していただきまして、親と子どもと一緒に通学路を歩きながら、どのような危険が、その通学路に潜んでいるのか確認し合うことで、防災意識がまた高まるのではないかなというふうに思っておりますし、そこからまた親子のきずなも強まっていくのではないかなというふうに思ってます。

学校で通学路の安全確認をまた調べまして、家庭のほうに話をして指導を行っていただきたいと思いますが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

通学路につきましては、今まで保護者、学校が協力しながら、あるいは地域の方々に協力していただきながら、主に不審者等にかかわっての安全マップを作成をしましました。しかし、今、議員からご指摘のあったように、万一の災害に対してという視点からも親子、あるいは地域の方と一緒にになりながら、通学路を点検してみるということは、非常に大事なことだと考えますので、今後、各学校と話をして、そういう視点からの検討もしてもらいたいようにしていきたいと、そう思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

能生地域の場合は特にそうでありますが、子どもたちが海沿いを歩きながら学校へ通うというのが普通であります。そういった中で、やはり不審者だけではなく、そういう津波が来たときにどこへ逃げればいいのか、そういうところを親と一緒に一度歩いてみて、確認をしていただきたいというふうに思っておりますし、それにはやっぱり学校からある程度調査をしていただきまして、その地域に合った連絡を、各家庭に行ってもらいたいというふうに思っています。

また、そういう避難訓練とかということになりますと、ガイドブックや各ハザードマップを、必要とするのではないかなというふうに思っておりますが、総務文教常任委員会でも、ハザードマップの見づらさが指摘されていると思います。

私もハザードマップを見て、大変見づらいハザードマップではないかなというふうに思っておりますが、今回の大震災を振り返りまして、すべてのハザードマップの見直しを一応していただきまして、悪いところがあればつくり直すか、また、あんまり今のところ欲張ったマップでありまして、見づらいと思いますので、もう少しシンプルなものにしてもらったほうが、見やすいのではないかな

なというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

ハザードマップの見やすさということで、既に総務文教常任委員会のほうでもお答え申し上げておりますが、やはりそれぞれの災害につきまして今まで出してきました。これはもちろん国、県のデータをもとにして、その段階で出してきたわけですが、それが一応網羅された中で、今度は例えば各地区ごとに災害を網羅したものというもの、地区ごとで一番わかりやすいものをつくっていきたい。

これも先ほど申し上げております、各地区との懇談会の中で詰めていききたい。それもできるところから、早目にやれるところはやっていききたい。例えば、それは簡易性のものである。もう1つは、地区ごとに、先日も申し上げましたが、いわゆる図上訓練をやりながら、ここがそうだよということを確認していただきながら、つくっていくのも非常に有効なことだと思いますので、そんなことも含めながらやっていきます。もう1点は、国等から今回の大震災に対して、相当のデータがやはり来ると思いますので、それもあわせて改訂をしていく予定であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

やっぱりハザードマップは、その地域に合ったハザードマップの作り方が必要だというふうに思ってますし、例えば学校でいえば、通学路に合った学校独自のマップの作成も必要になってくるのではないかなというふうに思っています。

総文の中でもハザードマップは、地震、洪水、津波、土砂災害など、非常に多様化しているということで大変見づらいと。将来的に、見やすくなるように検討したいというような答弁もなされておりますが、今の話がありましたように地域に合った、そういったものを早急につくっていただく必要があるのではないかなというふうに思います。

例えば、津波が遡上するおそれのある地域も、洪水の場合は、今、色分けしてあるわけですが、津波の遡上のところも、できれば津波マップの中で、地図に落とさせていただきたいというふうに思いますが、また、今の津波マップだとちょっと小さいんで、なかなか見づらい。それも少し大きめに、その中に10メートルライン、30メートルラインを入れることによって、地域の人たちが見ても、どの辺に避難すればいいのかというのが、わかりやすくなるのではないかなというふうに思っております。

また、このマップには避難施設ということで、赤丸の場合は津波で避難ができる施設、それから黒丸は津波のときは避難ができない施設、緑の丸は広場というふうに、3種類明記してあるわけですが、津波ハザードマップということなので、避難のできない施設を入れたってしょうがないと思いますので、津波のときに間違いなく避難のできる安全な施設だけを、その中に明記するということが必要ではないかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

改訂をする際にはそのことも考慮し、反映してまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

ぜひお願いします。細かいところまで気配りし、見やすいものにしていただきたいと思います。

きょうの日報の記事にも載っておりましたが、寺泊で350人余りが参加して、群馬大の片田先生の地震・津波講演会が開催され、その中で、先週、保坂 悟議員も話をしていました、震災前に釜石市の子どもたちに教えた、想定にとられるな、最善を尽くせ、率先避難者であれという避難の3原則を紹介したというふうな記事が載っていました。その中で、子どもたちが可能な限り高台に素早く逃げ、助かった実例を説明したというふうに書かれています。

私たち清生クラブでも、7月7日にビーチホールまがたまにて片田先生をお呼びし、「東日本大震災に見る命の分岐点」と題して、釜石市津波防災教育に学ぶということで講演会を開催いたします。片田先生は、上越市の防災にも深くかかわっておられまして、本市においても、大変勉強になる話が聞けるのではないかなというふうに思っております。消防や教育委員会はもとより各防災組織、また、地域の方々から大勢集まっていたいただき、防災教育の認識を高めていただきたいと思います。+
すが、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

片田先生の津波のご講義、それぞれ報道されていたり、あるいは昨年の上越のものについても承知しております。シミュレーションも出していただいておりますので、ぜひともやはり皆様方にお聞きになっていただき、あるいはごらんになっていただき認識を深め、津波へのまた危機体制を高めていただきたいと思いますというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

ぜひ講演会に出席していただきまして、糸魚川市の基本計画や防災計画、その辺の見直しや防災組織のあり方、また、今後の立ち上げ方について、いろいろと役立てていただきたいと思いますというふうに思っております。

次に、自主防災組織について伺いたいと思います。

3月の一般質問では、自主防災組織は53団体、61.1%との答弁がありました。今回の大震災の後、組織を立ち上げてない地域から自主防災組織を立ち上げたいといったような話が何件ほどあったのか、なかったのか。また、立ち上げていない地域に行政として地域へ入り、立ち上げのお話をしたのかどうか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

本年度、23年4月1日現在では56団体、62.3%ということで、昨年同期よりも4団体、1.6%増加しております。この震災以降どうだということにつきましては、やはり少しずつですが、そういうお話を聞いております。

もう1点、震災以降、殊に今未設置の団体に対して、こちらからも直接代表の方々をお願いし、あるいは設立に向けた準備を進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

市のほうでも、防災組織を立ち上げたいという話があるのを待つのもそうですけど、こっちから出向いて、積極的に防災組織の立ち上げをお願いしていただきたいというふうに思っております。

市のホームページにも防災組織の必要性が載っておりまして、それを見れば簡単に申しますれば、住民一人一人が力を合わせ活動し、逃げおくれをつくらないために地域の人たちが助け合って、避難するための組織であるということで、簡単に書いてありますが、自主防災組織の必要性を行政が本当に地域に出向いて、この辺のところを話をして、行政主導型で立ち上げの方向へ向かっていただきたいと思いますが、いまだに立ち上げられていない人たちには、どのような原因といいましょうか、理由があるのかわかりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

まずは、積極的にお勧めいただきたいということでございますが、こちらから出向いて、出前講座だけではなく直接代表者の方々に出向いて、お勧めをしております。

なお、どういう原因かということでございますが、やはり既存のそれぞれの自治会、あるいは公民館組織等のそういう自治会の組織の中で動きがとれるということで、今さらそこで新しい団体をつくらなくてもいいじゃないかというようなお話も聞いております。それにつきましては、その団体を利用して、そのまま今、自主防災の形としてできますということで、やはりそれに防災のこ

とも含めながら、進めていっていただきたいということをご説明申し上げております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

新たに立ち上げなくても、今ある組織でもできるということではありますが、やはり地域によっては過疎化が進み、住民が少なくなってきたりとか、お年寄りが多くて、なかなか立ち上げづらいということもあるかと思うんですね。そういったときに、例えば近隣の防災組織と合体するとか、今ある組織と一緒にになるとか、また、そういう組織が幾つか集まって、これから立ち上げるということは、近いところなら可能だと思うんですけど、その辺の話もしているわけがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

非常にやはり高齢化等で、その地域の方々の人口が少なくなってきたということで、なかなかその分でもできない地域につきましては、そのようなこと。あるいは、みんなでその辺、何地域かまとまってひとつお願いするというのも、今までもご説明申し上げております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

やっぱりそういった組織に出向くには、男性署員よりは、やはり女性のほうが当たりがやわらかくて、立ち上げてもらえるかどうか。話がしやすく、向こうも受け入れやすいのではないかなというふうに思っていますが、現在、女性の署員はいらっしゃらないというふうに思っているんですけど、今後、やはりそういう現場で働く署員だけではなくて、いろんな分野で活躍する女性署員ということも、採用する考えはあるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

女性消防職員、消防吏員の採用があるかということですが、当市ではもう数年前から、女性はいつでも受け入れますということで募集をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

ということは、なかなかいないということで理解すればよろしいでしょうか。積極的にお願いして、PRしていただきたいというふうに思います。

ホームページのほうで、防災組織の結成状況を調べました。そうしますと、20年8月現在がいまだに載っていて、39団体、48%という、まだ低い数字が載っていますので、できれば新しいものと書きかえを、早急にしていただきたいというふうに思っております。

最後に、防災対策の変更事項ということで伺っているわけですが、なかなか職員が集まってやっけていても、進まない仕事もあるかと思うんですね。そういった中で専門部会等を立ち上げて、本腰を入れて早急に、いろんな話を進めていくという考えは、あるのか、ないのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

防災の専門部会ということでございますが、市長のほうでもご答弁申し上げましたが、やはり防災会議を早急に、大震災に関連してお集まりいただきます。また、その中でお諮りしながら、それが必要ならば専門部会のほうも検討してまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

いろいろ今お願いやら提案をいたしました。大変この地域でも地震もあり、また、この前の話の中でも糸魚川沖で地震が起きる可能性もあるという話も出てきております。ぜひ住民の安全、また、財産を守るために、早急にいろんな対策をとっていただきたいというふうにお願いをいたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

議長（古畑浩一君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

関連質問ございませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

関連質問なしと認めます。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。〔17番 五十嵐健一郎君登壇〕

17番（五十嵐健一郎君）

奴奈川クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問させていただきます。

1、市地域新エネルギービジョンの推進について。

東日本大震災の原発問題で、再生可能エネルギーや自然エネルギーなどが再注目されてきました。

そこで、平成15年3月に旧糸魚川市地域新エネルギービジョンが策定され、すばらしい審議がなされています。これらをもとに8年経過した今、糸魚川市としてどう本気で推進していくか、具

体的にお伺いします。

- (1) 市の現況と新エネルギーの導入に関する検討について。
- (2) 導入可能性の評価と導入プロジェクト推進方策について。
- (3) 市地球温暖化対策推進計画策定のスケジュールとCO₂排出取引の取り組みについて。

2、林業の振興について。

森林の有する多面的機能の持続的発揮、林業・木材産業の地域資源創造型産業への再生、木材利用、エネルギー利用拡大による森林、林業の低炭素社会への貢献の3つの基本理念のもと、平成21年12月に、森林林業再生プランが策定されました。

1年半が経過した中、糸魚川市の面積の86.7%にも及ぶ森林をいかに活用し、森林所有者の意欲と林業の採算性をどう向上するか、以下、具体的にお伺います。

- (1) 市林業振興プランの策定スケジュールについて。
- (2) 施業の集約化と路網整備について。
- (3) 再造林を目指す長期伐採権制度への取り組みについて。
- (4) 森林の境界線と所有名義問題について。
- (5) ナラ枯れ防除策と山菜・山野草の乱獲防止策について。

3、県立高田特別支援学校ひすいの里分校高等部等の協議について伺います。

- (1) 高校の調査結果と移る時期までの対応について。
- (2) 市子ども一貫教育基本計画の中高連携について。
- (3) 卒業後の福祉社会就労の充実について。

以上で、第1回目の質問を終わります。前向きな答弁をよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、太陽光発電が国の補助制度や買い取り制度等を活用できることから、公共施設への太陽光発電設備を導入してきたほか、市の補助制度により住宅への設置を進めてまいりました。

2点目につきましては、新エネルギーの導入について、現状では採算性や安定稼働など課題がありますが、国の新エネルギーへの取り組みや電力の買い取り制度の動向等に変化が見込まれることから、それらの動向を把握する中で、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

3点目につきましては、環境審議会において7月からご審議をいただき、24年度末をめどに計画の策定に取り組むことといたしております。

また、CO₂排出取引につきましては、県内の事例を把握する中で調査を進めてまいります。

2番目の1点目につきましては、森林法が一部改正され、24年4月から施行されることに伴い、今年度末までに策定する予定であります。

2点目につきましては、県及び森林組合と連携を図りながら、森林所有者が共同で行う施業の集約化と、そのための作業路網の整備を促進してまいりたいと考えております。

3点目の長期伐採権制度は、森林資源管理の新たな仕組みとして、森林資源の循環利用に一定の効果も期待されますが、伐採権の法的位置づけなども、さらに検討すべき課題は多いものと考えております。

4点目につきましては、国産木材の需要と価格の低迷が続く中で、森林の手入れがなされず、境界がわからない状況が多く見受けられるのが現状であります。

今後、森林施業の集約化の中で、境界の明確化を促進してまいりたいと考えております。

5点目のナラ枯れ防除策は、これまで伐倒等で防除してまいりましたが、今年度は県が新たな試みといたしまして、おとり木による一括採捕方式を実施しており、その効果に期待するところであります。

山菜、山野草の乱獲防止策は、それぞれの地区において採取禁止の看板を設置するなどの対策を行っていただくほか、悪質なものについては、警察との連携も必要と考えております。

3番目のひすいの里分校のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願ひ申し上げます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

3番目の1点目につきましては、市内にある県立高校付近での設置に向けて、新潟県教育庁が調査中と伺っております。

また、24年度に移転先校舎の建設、25年度に新校舎への移転を目指しております。今後、高等部の分離がスムーズに行えるように、新潟県教育庁や関係者との連携により進めてまいります。

2点目につきましては、中学部と高等部において、教員相互の情報交換や連携した指導が行われております。

交流活動や合同学習など、充実した教育が展開されているものと把握しており、途切れない支援が日常的に行われているものと考えております。

3点目につきましては、学校での個別支援計画をもとに、本人の希望や能力に適した進路選択の支援に努めるとともに、ハローワーク、支援センターさくら等との連携を、さらに充実していく必要があると考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

では、2回目の質問をさせていただきます。

1番目の日本の世論調査で、調査会の結果で、再生可能エネルギー、太陽光、太陽熱、風力、地

熱、バイオマス、83.6%の方が調査で答えられている。それと水力が45.1%、それと天然ガスも31.4%という高い賛同をいただいている。

ここで、それぞれ各議員がいろいろな形で、この新エネルギー、再生可能エネルギーを質問されて、新しい情報収集。いろいろな形で、今、県では小水力発電とか、この前、甲村議員がおっしゃられたバイオマス関係、藻を利用したバイオマスですね、それとか田中議員も言われてた雪氷エネルギー、雪エネルギーですね、この辺の情報収集を含めて、どこまで、どういう形で収集されて、どう糸魚川市に取り入れようとしているか、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

県では22年度に、小水力導入の可能性調査、それと小規模地熱発電の導入の可能性調査というのを行っております。

我が糸魚川市におきましては小水力の導入可能性については、2点を候補として推薦をしましたが、最初の経済性の問題で漏れております。

小規模地熱発電については、糸魚川温泉の温泉が有力ではないかということで調査を行っております。これにつきましては、今のところまだ電力の売電価格等が、今、国会で出されておりますけれども、それがまだ決まってないということもありますし、それからボイラータービン主任技術者を自社で確保しなければならない等、問題点はあります。

ただ、先ほど市長が申しましたように、国の情勢も変わってきておることから、その辺のところを情報収集しまして、最大限、取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこで今、後期基本計画の審議会、各部会とかいろいろな形で論議がなされているということで、最終日になるかどうかあれですけど、いろんな形で議員に発表したいということで、総文であったかと思うんですが、その辺でのやっぱり新エネルギー、再生エネルギー、そういう論議で、どういう形の意見とか、提案とかあったのか。それでどうまとめていく予定だと、その辺どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

現在、策定中の総合計画の後期基本計画におきまして、今、中盤戦ということで、6月30日の日に中間報告の策定の途中になりますけれども、議会の皆さんにもご意見をお聞きしたいという中にも、当然、今の新エネルギーにつきましても位置づけをしておるところであります。

私もこの4月からでありますので、その部分につきまして私に来てから2回審議会が行われておりますけれども、その中においては、特に私のほうでは直接的な意見はお聞きしておりませんが、これまでの審議会の中でご意見が出て、一定の方向づけがされているというふうに受けとめております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

4月から来たから、そんなことを言うとりゃ課長だめですよ。いろいろな形で皆さんの意見を聞きながら、後期基本計画に反映してもらわないことには。

そこで、旧糸魚川市で平成15年3月、すばらしいものを完成され、地域新エネルギービジョン、これも各それぞれの地熱や太陽光、並びに小水力、マイクロ水力、審議会、すごいメンバーを集めてやっとなのが8年経過したんですよね。そこで、いまだかつて太陽光ぐらいじゃないですか、使われているのは、公共施設。その後、8年も経過して何をやってきたんですか。私は8年も経過してれば、企業とかいろいろな形でタイアップしてできたんじゃないかと、こう思っているんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

2点目でお答えしておりますように、新エネルギーの導入については前向きに、これは努めていかなくちゃいけないと思っておりますわけですが、しかし、現状での採算性、そして安定稼働など課題が多くあるわけがございますし、その辺がやはり一番の問題点だったろうと思っております。

しかし、先ほどの1回目の答弁でもお答えしたとおり、今、国の新エネルギーへの取り組みが、電力の買い取り価格なども含めながら変化があるわけがあります。そうなりますと、我々が今までできなかったことまで、その視野に入れる部分もあるのかなと思っておりますので、そういったところをやはり我々は、もう一度検討していかなくちゃいけないだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

3月に予算委員会で、太陽光発電電力の売電電力とか一覧見させてもらったり、6月20日から一般住宅用の民間施設省エネ・新エネ設備導入補助事業ということで、第2次募集がかけられております。この辺で、第1次とかこの経過、どの辺まで一般住宅用に糸魚川市内で使われてきたか、この辺も把握してるかどうかと、やっぱり公共施設だけでなく各企業を回ってお願いしたり、この辺やってきたかどうか、その辺の経過を教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

太陽光発電設備の一般住宅につきましては、糸魚川市としましては平成15年から補助金を交付しておりまして、全部で73棟の補助交付をしておるところであります。

企業は一応補助対象になっていないことから、企業への働きかけというのは、私の課としては行っていません。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

各建設会社とか建築会社とか工務店、並びにいろいろな形で、この補助を使って一般住宅用とできると思うんですわ、その辺、把握されてないでしょうか。成果も含めて。

議長（古畑浩一君）

質問がわかりますか。そういう制度を使ってそういう工務店等に、そういう制度があるからということで、その普及促進ということをやったことがありますかということを知っているんで、答えられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今、議員からご指摘にありましように、一般住宅向けに工事を行う建築会社、あるいは設備会社と、こういったものへの周知につきましては、今まであまり力が入っていません。ただ、直接住宅、あるいは設備会社が問い合わせに来ることには応じておたんですけれども、積極的なPRという面では、いま一歩だったというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

こういう制度を、今、国が考えている。県では、新しい予算でついでるんですね。それですばらしいですよ、太陽光だけでなく風力、地熱、いろいろな省エネ関係で、太陽光、太陽熱を含めて、ガスエンジン給湯設備とかガス関係もあるんですよ。いろいろな形で出てるのを、やっぱり使ってもらわないとだめなんじゃないですか。やっぱり企業支援室もごさいますし、取り組むのは市はどこかわかりませんが、その辺も含めて。6月20日ってもうじきですか、そういう積極性。やるって答えているのに、やってないじゃないですか。その辺、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

企業の皆さんで、そういう新エネルギーを活用した、いわゆる産業用の取り組み等を実施されたいというようなケースにつきましては、私どもは折に触れて情報提供しながら、具体的なものにつきましては、国、県の有利な助成制度等もございますので、ご相談に応じて、そのような制度に手を挙げていただくような話をさせていただいておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこが肝心なんですね。積極的にやるというところを企業も含めて行政が音頭を取って、企業にどういう形で、一般市民向けも含めてどうやるかというのは、やっぱり行政が主体にならんとだめだと思いますし。

今、建設業界も大変厳しい。県の建設関係のプランも出ました、ビジョンですか。その中でT P Pでないですよ、P P PとPが3つ、パブリック・プライベート・パートナーシップということで公共サービスも含めて、行政のみならず民間企業や住民等と連携しながら提供するもので、全国的に今検討や導入をされ始めてきたと。そういうのもやっぱり行政と企業、市民、今N P Oも法が改正されました、N P Oと連携、協働で、公共性の高いプロジェクトをより効率的に進めていく、そういう形もやっぱり必要ではないでしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

ただいま議員がおっしゃるように、私ども公共だけではいろいろな施策というのは進めません。おっしゃるとおり私どもが積極的な情報収集や、あるいは技術開発等の動向等を民間企業にお知らせすることによって、民間の力を大いに発揮させるということは必要だと思っておりますので、私どもも今後、情報収集をしたり、あるいは民間といろいろな協議をすることに、できる限り努めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ積極的にお願ひしたいと思ひますし、国の制度も政府が挙げてきてるといふこともございませぬし、県も力を入れている。それと今、行革で行政経営と、経営感覚で物事を考えていくといふことであります。

そこで、社会資本のアセットマネジメントの考え方の導入といふことで、従来型どおりではだめだと。いろいろなところから補修を行う対処療法的判断でなく、総合的で戦略的なマネジメント手法が必要だといふことで、プラン・ドゥーだけでなく、プラン・ドゥー・チェック・アクションと言

われております。ぜひそういう面もお願いしたい。

それで今、ソフトバンクが19道府県に推進協議会、耕作放棄地や休耕田、メガソーラー、新潟では昭和シェル石油とタイアップしながらメガソーラーをやられている。2番目の森林振興にもかかわってくるんですが、そういういろいろな土地、土地はいっぱいあります、糸魚川には。そういうのも含めて、何か糸魚川市にできないか、今がチャンスだと思うんですが、糸魚川市としては、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに議員ご指摘のように、非常に自然の変化に富んで糸魚川市でございます、面積も多くあります。そういう中で、何が一番特徴なのか。やはりその特徴あるものを生かしてエネルギーに結びつけていくことが、やはり一番最善の策だろうと私も思います。

今までの中で一番使われているのが水力発電であるわけでありまして、今まで調査の中においては、地熱等も調査をさせていただいておりますし、そういったデータ等もあるわけでありまして。そういう中でいろんなものが想定されますが、風力は我々の経験からちょっと難しいのかなと思っております。

そういったところを再確認をさせていただく中で、取り組まなくちゃいけないだろうと思っておるわけでありまして、しかし、非常にそういった変化に富んだところだからこそ、また初期投資というのが大きく出てくる部分もあるかと思うわけでございますので、そういったところは、また今まで取り組めなかった部分でもあるので、そういったところがどうなるのか。そういったところを検討することが大事だろうと思ひまして、今冒頭でもお話したように、やはり採算性というのはどこにあるのかという、そういったところも、今、議員ご指摘のように、ただつくればいいということではなからうかと思うわけでございますので、そういったところを、再度、取り組まさせていただきますかなくちゃいけないだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

本当に今チャンスだと思うんです。小規模の水力発電装置ということで、1キロから3キロワットぐらいで、今、150万円から300万円ということでお聞きしておりますし、農業用水とかを使って発電したりしてるマイクロ水力発電。

それと今、バイナリー方式の地熱で、「夢の扉」と開くと藻の関係も出てきますし、いろいろな形でやはり情報とか完成している。

今、地熱の関係で、九州大学が年内の実証試験で、小型化したタービンも実証試験でやって、来年、買い取りがあるということも聞いております。かなり小型化もして、安くなったりしていると思うんです。原発論議もありますが、いろいろな形でこういうのがあつ、自然があるんですから、

ぜひ積極的にお願いしたいと、こう思っておりますし。

富山県では本当に小水力、かなり普及されております。長野でも小谷の地熱を含めて、長野県は小水力ですか、そういうものもあります。ぜひ糸魚川市で生かしていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今言われた資源についても、本当に私も重要な糸魚川市の資源だと思います。

しかし、糸魚川市は水にいたしましても、今、精いっぱい取っておる関係、そして急流河川ということで、やはり四季の中において水量が安定しないというのも大きな問題点であろう。我々の雪をどのように静かに消しながら、水量を安定させるかということが大事になってくるような部分も出てくるんだろう。でありますから我々は、この地形をいろいろそれに合わせていくということ、初期投資というのが、大きくやはり問題になるんだろうと思っております。

地熱におきましても今言われるように、非常にいろんな面で技術も進んでますし、また、そういった部分も、今、小規模の中でも国の支援策というのも出てきてるわけでありまして。そういう外因的なまた要因も変わってきてますので、そういったところをあわせながら、取り組まさせていただきますと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこで本当に研究所的な、港を利用したり、土地はそこらじゅうありますし、その辺の研究開発的なもの、やっぱり新エネルギー基地的なもの、その辺も含めて考えてモデル地域になってほしい。特区とか、そういう利用をしていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

何度もお答えしてるように、こういった地形が全国津々浦々にいっぱいあるんだったら、こういうところが、やはりモデル的になる部分もあるのかもしれませんが、そう多くはないと思っております。それが我々のジオパークで認めていただいたように、あんまりそこここにある地形じゃないぜと、場所じゃないぜというところが大きく評価しとる部分であるわけでありまして。

そのように非常に限られた場所、その中で我々はどのように使っていくかということは、やはり今、議員ご指摘のように知恵を出さなくちゃいけないわけでありまして、ちょっと私の今のこの糸魚川市の組織の中においては、少し縦割りの部分もあるので、その辺はどのようにまた検討する

ひとつ組織というのは、あるのかという形でもって考えなくちゃいけないと思っておりますが、これはいろんな立場、立場の中で、進めていくこともまたできるわけでございますので、そのように取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

きょうの新聞ですか、長岡技術科学大学、天然ガスを利用してメタン活用技術における産学連携とかいろいろな協力企業も含めて、企業と大学といろいろな形で産官学連携も含めて、そういう形でやっぱり行政が主になるんでなく、バックアップ体制もやっぱり私は必要だと思うんです。その辺も含めて、ぜひ積極的にお願いして、次に移らせていただきます。

今、米田市長も言われたように、この前、東京糸魚川会、東大庭師倶楽部が出されたその中に、やっぱりこの森林資源もすばらしい。それぞれの谷川の河川の源流とかを含めて、それにはやっぱり森、森林が必要だと言われておりますし、それに育つ鳥とか川魚を含めて、それにはやっぱり森が大切だと言われております。この方々は造園学でいう、美しい森は施業をはぐくむという発想から生まれていると言われておまして、糸西大漁の森づくり協議会なんかもやっぱりすばらしい、森、川、海は1つということで、植林だとかいろいろな形でやられている。

そこで今、森林振興協議会ができてるかと思うんですが、その重要課題を3点ばかり挙げていただいて、その取り組み状況はどうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

市のほうで関係団体と組織されます森林林業振興協議会というのがございまして、そちらを中心に糸魚川市の森林整備、林業の振興に取り組んでおります。

その中で大きい項目といたしましては、重要な市内の木材資源を育成すること、もう1つは、地場産の材を利用拡大すること、まとめてしまうと、この2つが大きい取り組み課題だと思っております。何年来の中でこの課題に向かひまして、いろいろな方策、施策を展開して進めておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこで間伐とかいろいろな形で、集約化、団地化を含めて促進を図っていかなくちゃならない。

それで京都府の南丹市、その日吉町森林組合というのが、少ないんですが組合員1,000人ぐらいで職員25人。それで年間で30から40ヘクタールやられておったんですが、主に間伐で、それが300から400ヘクタールに事業面積をふやしてると。それには森林プランを作成して、

森林整備を請け負うための企画書ですね、見積書も含めて、間伐材を搬出して販売した利益の予想額も示して、それと補助金も紹介して幾ばくかの利益も返せるような設定で企画書を出しとるんですね。現況写真もつけながら、それが重要だと言われとるんですが、この辺も含めて、これらぬながわ森林組合等は取り組んでいるのか、そういう形でやっておられるのかどうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

前段でも触れるわけでありますが、やはり一番の大きな原因は、国産材の需要と価格の低迷であるわけでありまして。それがやはり当系魚川市の森林の手入れがなされない、大きな原因じゃなかるうかと思っています。

また、今1つ例にいただいたものにつきましても、やはり地形的な違いがあろうかと思っています。やはり降雪地帯の木材、それに対する現在の価値観の違いがあるんだらうと思うわけでございまして、私はその辺のやはり優位性を、またもっとやっぱり研究するべきだらう。そういうことが、やはりこの木の需要にもつながるわけでありまして、そういった何かやはりこの特徴を、どのように生かしていくかということ、もう少し検討しなくちゃいけないんだらうと思っております。

それと、やはり広大と言いながらも糸魚川の面積については、まだまだ少ない部分もあろうかと思うわけでありまして、そういったところをどのようにやっていくのか。大規模な対応も考えなくては、やはり市場競争に勝てないわけでございますので、そういったところも頭に置きながらやらなくちゃいけないんですが、悲しいかな、そこまでもないというのが実情だらうと思っております。

そういう中で我々の持つておる面積やいろんなものは、もうある程度把握されてるわけでありまして、それをどのように生かしていくかということが、今、一番この協議会の大きな問題点だらうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今、ぬながわ森林組合では、昨年購入したGPSを利用して、衛星から地籍調査とかを含めて、立ち会いも含めて、いろいろな形でそれもやってると。そこでやっぱり今、国交省が2004年に山村境界保全事業を開始して、いろいろな形で国有林は徐々に測量が進められているんですが、地籍図が作成されたか。民有林は、ほとんど放置だそうなんですが、その辺で今やらないと、若い世代がどこの土地を持つてるかと言われれば、なかなかわからんと思うんで、今、土地持つての方々をやっていかないことには、全然今度はわからなくなると思うんですが、その辺はどうされてるか。林野の進捗率は、全国的には42%だそうですが、糸魚川はどんな状況ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

数字的なことは、後ほどまた課長のほうから答弁させますが、本当に我々の地域の課題の中に大きくあります森林面積についても、所有面積が非常に細かい部分があるわけでありまして。大きいところもあるわけでありまして、しかし、押しなべて他に比べて、個人の所有する面積が少ないというところが、また、境界も非常に込み入っておる部分があります。

そういう中で、価格の低迷をやはり気にする形なのでありましょうか、なかなか手入れがなされないと、だんだん、だんだん境がわからなくなる。そういったところで、それじゃ境をはっきりしてまで何かやれるかという、金を投資にかけても、それがなかなか上がってこない部分があるから放置される率が結構高いわけでありまして。

そういう中で、我々といたしましてはその辺を整備、また、それをどういう形で、森林組合が核になればいいのか、また、所有者がある程度かたまったら、1つの団地攻勢をかけていかななくてはいけないわけでありまして、製材屋さんがなればいいのか、その辺が大きな問題であるわけでありまして、そういったところを、どこかでまとめなくちゃいけないと思うんですが、今のこの厳しい財政といいましょうか、経済状況の中においては、なかなかまとまっていかない部分があるわけでありまして。その辺が少し動き出しますと境界というものが、もうちょっと明確に早くなってくるのだらうと思っております。

数字につきましては、課長のほうから答弁させます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

施業率ということのご質問でございますけれども、ちょっと数字的なものは、現在、資料を持ち合わせておりませんので、ちょっとこの場ではお答えできない状況でございますけれども、毎年、森林組合のほうでは、平成22年度では約89ヘクタールの施業を実施しております。23年度においては約100ヘクタールを予定いたしております。全体的には約6,000ヘクタールぐらい、間伐が必要な森林が市内にはあるというふうに言われておりますので、この規模でやってもなかなか、まだまだ年数がかかっていくという状況だというふうに思っております。

今後、先ほどお話がありましたように施業を集団で行う集約化の中で、森林組合が昨年度、県の補助事業で入れましたGPSの機械を使って、それぞれの境界をGPSの座標値で明らかにして、後世に残していくというような取り組みを促進をしていくという動きを、森林組合、県等の関係機関と協力しながら実施をして、進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

全部森林だけでなく、糸魚川市全体をやるというのは何百年もかかるんですが、早くできる方法

があるかと思うんですが、ぜひやっていただきたいと、こう思っております。

それと名義変更もしてなかったりとか、相続権の権利者が分散していったとか、地目が山林扱いになっていなかったりとか、それで助成金がもらえなかったりとか、相続、売却にも問題が発生する。適切な管理を怠ると森林に手をつけられなくなるケースも、日本中に広がっているそうです。今やらんことには、本当に間に合わんぐらいになるかと思うので、ぜひお願いしたいと思いません。

それで再生林を目指す長期伐採権制度ですが、なかなか難しいと言われておるんですが、やっぱり伐採と森づくりをセットする考え方。5年から10年の長期契約を結んで、これを日本で提唱したのが、亡くなられた堺 正紘九州大学大学院教授だったそうであります。やっぱりそういう長いスパンの考えで、ぜひ森林もこういう方法を取り入れていけないかどうかと、こういう関係で補助金があるかどうか、教えていただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

長期伐採権制度でございますけれども、伐採をした後、造林をして、ある程度の製品にするまでを伐採権というような形で売り渡すんだというような制度でございますけれども、なかなかこれについてはまだまだ、堺先生も提唱の中で言っておられますけれども、まだ社会的制度として幾つかの課題があって、理想的には望ましい姿だと思っておりますけれども、いわゆる森林経営をしていく中ではまだ課題が多い状況から、今後、いろいろ現在ある制度の中での取り組みを続けていくというのが、現状のスタンスだと思っております。

したがいまして、この長期伐採権制度に関する補助制度というのは、現在ないというふうに認識いたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

この関係で、旧能生町と深いつながりのある岩手県の葛巻町ですか、ここですばらしい森林関係で、東京事務所に持つNPOを活用して森の町内会ということで、伐採に寄与した紙を割高価格で購入して、関連した深い企業にそういう形で、その企業と町と森林組合3社で、森林保全協定ということでやってるそうです。10年ほどの長期施業の委託をしているいろいろな形で、企業と結びついた形で顧客を広く案内して、炭焼き体験や葛巻の山村エコツアーリズムだとかいろいろな形で、そして自分らでつくったミルクやワイン、いろいろな形で送ったりやってる。

私は補助金がなくてもいろいろな形で、長期伐採権制度みたいな糸魚川版ジオツアーリズムも含めてやっていけるんじゃないかと、こう思っております。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

長期伐採権制度という堺先生が提唱されている制度とは別に、今おっしゃられますように市内にあります山林の資源等を、企業と連携をしながら活用していくと。先ほどおっしゃられておりました、いわゆる産学官の連携等の取り組みの中で、そういう動きは非常に必要なことだと思っております。

したがって、そういう方向については私どもも関係団体、あるいは企業等と研究、あるいは情報交換等をしながら進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひジオパーク交流プランも、もうじき完成ということも聞いておりますしいろいろな形で、今回、森林、林業関係をやりましたが、いろいろな第1次産業を含めて、その場がいろいろあると思うんです。そこで特用林産物、いわゆる山菜とかキノコ、今、キクラゲもつくってる。徳島県上勝町でやってる葉っぱビジネス。木炭とかを今、振興局にも飾られたり、いろいろな形で販売されている。そういうのも農林・商工連携も含めてやっていってほしいんですが。小滝地区ではオオイタドリでレシピブックとか、すばらしいものをやられている。

それと今、山菜が、ナンバープレートを見ると違う県の方々がいらっちゃって、根こそぎ取っていくんですね。そこを入れんようにしても、車で、切っていくそうですよね。やっぱり条例をつくれとかじゃないですけど、何かやっていかないとだめだと思っておりますが、何か本当の方法はないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

いわゆる山菜・山野草の乱獲の防止ということでございますけれども、先ほど市長が答弁申し上げましたように、なかなか有効な手だてはないというふうに考えております。地元の皆さんが、防止のための表示をする。悪質なものについては先ほど言いました警察と、連携をとりながら取り組むというようなことになるのではないかと考えております。

全国的には、まれには条例をつくっておるともあるようでございますけれども、実際的には、近くの方が裏山へ行って、山菜をとる等の社会的慣習もあるわけでございますので、市外の者だけを特定して、そのような形のものを当てはめるといのは、現実的には、なかなか条例はつくって見たものの、難しいという面もあるやに聞いております。

そんな状況でございますので、冒頭申し上げたような取り組みの中で、現状は進めていくというのが、現在置かれている状況かというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番(五十嵐健一郎君)

山菜も含めて山野草、道を整備すれば山野草もみんな根こそぎとっていく状態も、ジオパークを整備したらそういうのもございますし、高山植物、すばらしいのがあるのをとっていったり、地元の方々かも知れませんが、やっぱりいろいろな形で何かを。カメラを設置してありますと、本当に設置してないかも知れませんが、そんなようなのを書いたり何かをやらないと、現場写真を撮らないと逮捕できないそうですね。

山菜なんかは聞くと高いんですね、すごい。フキノトウが500グラムで2,500円とか、インターネットで、それで100グラムで500円、いろいろな形で高い。小滝の方々、そういうのを振興局とタイアップして、今度、加工場をつくりませんが、やっぱり今度は集団化して、オオイトドリじゃないですけど取りにいきますよね。いろいろな今度は山菜もとりにいく、その前にとられていけば。それをしないように三交代で見張れじゃないですけど、やっぱりその辺まで何か考えないと、この資源を奪われますよ、根こそぎですので。その辺も含めて応援していただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長(米田 徹君)

お答えいたします。

今、非常に厳しい取り締まりを行っているところは、市内にも1カ所あるわけでありまして。非常にトラブル覚悟でやられているみたいであります。それがいても、やはりそれを抜けていくという人が出てきております。ほかのところは、もう本当に今言われるように地元の人よりも、よそにとっていかれることが多いのだらうと思っております。

前回のクマの被害も他地区の方でございまして、そのような感覚で来られた部分があるのでなかろうかと思われるわけでございまして、そういうことを考えますと、我々はどのようにそれを取り締まればいいのかというのは、本当に大きな事柄でありますし、付加価値のある山菜ほど、とられるわけでありまして。その辺は地元の方々、やはり逆に先にとっていただいて、地域振興につなげていただきたいと思うわけでありまして、そういったところをもうちょっとやはり工夫していただければと思っております。

そして、よりそれに加わる人たちが多くなって、しょっちゅうそちらのほうへ行く。そして、またその辺に常にいるということが、犯罪といいましょうか、もうほとんど犯罪行為であります。そういったことに歯どめがかかるんじゃないかならうかと思うわけでございまして、その辺をみんなで知恵を出していただかないと、行政で今パトロールをしても、本当にそのすき間を縫われるわけでありまして、その辺も地元の方々と、また協議をさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

五十嵐議員。

17番(五十嵐健一郎君)

その辺も工夫して、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

森林セラピーとかいろいろな形で、今、エコツーリズムも含めて、ジオパーク関連でもやってくれるんですが、基地の指定だとかいろいろな形も取り入れながらやっていただきたいと思います。今、CO₂削減も含めて音楽家の坂本龍一さんとか、いろんな木からエコを始めようとかで、CO₂相殺費用とか上乘せで十日町がいろんな形でやりました。ソニーと連携ですか、いろいろ県内でもやられているんですが、やっぱりその辺も含めて、今度は林業も含めてできる方策もかなり出ておるんですが、それも積極的にやっていただきたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに今、議員ご指摘のように、ちょっと木材関係でありますと、かなりの数量だとか、いろいろ厳しいハードルがあるわけでありましたが、しかし、自然に親しみながらそういう環境保全をしながら、またそれから得る我々は健康管理もできる部分があるわけでありますので、市民の森等も結構面積がありますし、また、我々は森林の中に、いろいろと公共施設もつくってきた部分があるわけですので、そういったところを市民だけではなくて、このジオパークに取り組んでおる機会に全国の企業のほうにも呼びかけてまいりたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思いますし、東大庭師倶楽部の中に、ナショナルトラストの山林と渓谷ということで、100年先の日本の財産が糸魚川にあると言われておりますし、その中で保護と利用で環境学の中の森林科学。難しいんですが、造園学による人と自然の共存共栄哲学の構築とかゾーニング、やっぱり各谷々、川もございましてゾーニングをして、伊藤議員も言われてるランドデザインも含めて、山、森、水、糸魚川地域のポテンシャルゾーンの設定も含めて、どういう木を植えたらいいかいろいろのことを考えて、ジオパークにつなげていただきたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく議員ご指摘のとおりだと思っております。そのゾーニングが、やはりジオサイトだろうと思うわけでありまして。そして、そこにまず住んでおる方々が、どのようにお考えになっているのか、また、どのようにその中に加わっていただきたいかということが、私は大切だろうと思っております。その辺の皆様方との協議をしながら、このゾーニングの中の位置づけ。

また、それをどのように描いているか、また、どのようにこれからそれを活用していくかというところをみんなで進められれば、今、議員ご指摘のような方向にいくだろうと思ってるわけですので、ぜひともジオパークの中で、取り組まさせていただきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひジオパーク戦略プランも含めて、後期基本計画の中にもそういうような形が盛り込んでいただきたいなと、こう思っておりますので、よろしくをお願いします。

時間がありませんが、ひすいの里の高等部、県ではどこへ建てるか発表できないということですが、26日からですか、県議会が行われますので、そこで発表されるかなということですが、喉にひっかかっているんですが、県立のもので、糸魚川市が発表してしまえば終わりですので、ぜひお願いしたいと思います。

それと、中学部と高等部の連携ですね、特に重複学級。肢体不自由や弱視、目の不自由な方、それと知的障害を持っている、そういう重複の方々の施設整備ですね。どういう形で進めていかれようとしているか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

結城教育総務課長。〔教育委員会教育総務課長 結城一也君登壇〕

教育委員会教育総務課長（結城一也君）

お答えいたします。

今現在、糸魚川小学校の中で、高等部、それから小学部、中学部と一緒に勉強していただいているわけですので、糸魚川小学校の改築スケジュールにのっとって、それに伴いまして高等部のほうは、どちらになるかまだ発表はございませんが、そちらのほうと一緒に建設していきたいというふうに県からも聞いておりますし、うちのほうもそうしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思います。

それと就職の関係ですが、今、ワークセンターにしうみも含めて、積極的に異業種等の交流も含めてやっていると。そういうのも含めて行政中に入りながら、やっぱり人数がかなりふえております。高等部も今度新しくなれば、四、五十人になるんじゃないですか。子どもは減ってるんですが、障害児はふえてると。そういうのも含めて、就業に結びつけていただければ幸いかと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

近年できましたワークセンターにしうみにつきましては、できるだけ一般就労に結びつくような移行支援事業に取り組んでまいっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ結びつけていただきたい。

それと新エネルギー、再生可能エネルギー、林業も含めて、ぜひジオパークに結びつけていただきたいことで終わります。

ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を2時40分といたします。

午後2時28分 休憩

午後2時40分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、渡辺議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。〔4番 渡辺重雄君登壇〕

4番（渡辺重雄君）

清生クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

1、地域活性化の取り組みと手法についてであります。

総合計画前期計画での地域振興計画は具体的な取り組みがない中で、後期基本計画では、地域づくりビジョン、プランという形で進められると聞いております。

地域住民に一番身近なビジョンとプランが、地域のリーダーにもなかなか理解されていない面があり、糸魚川市における協働の理念とはどういう意味を持つのかを改めて考えさせられます。十人十色から一人十色とも言われる昨今にあって、多様化する住民のニーズの把握と反映は非常に難し

いが、手法については手を抜くことなく取り組んでほしいものです。

さらに、糸魚川市が目標とする都市像「翠の交流都市」を可能にするために外部の人材やNPO、大学の活用を期待するところであります。

以上の観点から、以下の点について伺います。

(1) 地域づくりビジョン、プランの策定についてであります。

総合計画の前期で地域振興計画策定がなかったのはなぜか、そして、今回の地域づくりビジョン、プランの策定の意図と手法を伺います。

(2) 国の支援制度の活用についてであります。

国の地域づくり支援事業での、ソフト事業の活用が少ないのはなぜか、今後、外部の人材を活用する支援事業などの導入について伺います。

(3) NPOや大学の活用と協働に関する取り組みについてであります。

当市は他市に比べてNPOや大学の活用が少ないのはなぜか、さらに協働に関する取り組みも弱いと感じており、今後の取り組みについて伺います。

2、研修や公的行事における交通の確保についてであります。

ジオパーク事業は、各種の教室や出前講座による様々な研修から、これからは現地研修等の体験による生きた研修により高めたいと考えます。

同時に、自治会や地域の各種団体からは、現地に足を運ぶために、団体向けのバスの貸出し等の要望が多く聞かれます。

また、交通弱者である老人クラブからも、視察や研修等に関して交通の便宜を図ってほしいという声も聞かれます。

さらに、市中心部における各種の研修や公的行事でも、夜間は公共交通の限界から、参加のできない市民も大勢います。

当然、日常の市民生活における交通の確保は優先すべきですが、市民レベルを向上させるためにも、研修や公的行事における交通の確保について、実状を考慮した取り組みが必要と考えます。

以上の観点から、以下の点について伺います。

(1) ジオパーク現地研修の必要性と交通の確保についてであります。

ジオパーク事業は市民共通のテーマとして、効果を期待しており、市民の現地研修による学習や体験を容易にする交通の確保について伺います。

(2) 交通弱者対策として福祉バスの配備についてであります。

交通弱者である福祉関係団体等が、視察、研修等を行うことにより、福祉の向上を図るため、福祉バスの貸出し制度の導入について伺います。

(3) 夜間の交通と駐車場についてであります。

当市の夜間交通は非常に不便であり、研修や公的行事への参加も容易でない人も多いことから、これらの対策と駐車場の実状について伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、合併直後であり、全市的な一体感の醸成を最優先したことから、取り組むことができなかつたものであります。

地域づくりビジョンにつきましては、地区の現状と課題、地区の将来像、さらには後期基本計画期間中に市が行う施策の方向性を示したものであり、昨年から地区の皆さんと協議を進めてまいりました。

また、プランにつきましては、今後、地域づくりや自治会活動等の具体的な取り組みを定めるものであり、地区住民が主体となり、地区の総意により策定される計画でありますことから、市も計画の策定や実現にかかる活動を支援してまいりたいと考えております。

2点目、外部人材を活用する国の支援事業といたしましては、地域おこし協力隊や集落支援員などありますが、国の支援制度活用にあたっては、地域の中で話し合いが大切であり、当市の実情に合った形で外部人材の活用について検討してまいります。

3点目につきましては、市内にはNPO法人が4団体と、その他、花いっぱい会や手話サークルなど、いわゆるNPO活動を行っている登録団体は90団体あります。NPO法人は、それぞれ独自の活動を行っておりますが、連携を図りながら協働のまちづくりを行ってまいりますほか、目的や事柄に応じて大学等との連携を図っております。

今後は市民主体によるまちづくりが一層重要であることから、市内で活動する地域づくり団体やボランティア団体等から、積極的に参加いただけるよう取り組んでまいります。

2番目の1点目につきましては、市や糸魚川ジオパーク協議会が実施いたしております現地研修をはじめ、自治会や各種団体の公民館活動などでも研修を実施いただいております。糸魚川ジオパークの理解や郷土愛を醸成する上で、現地研修は大変重要であると思っております。

このようなことから、参加者の交通を確保してまいりたいところでありますが、市が所有するバスには限りがありますので、それぞれの実情に応じて対応させていただきたいと考えております。

2点目につきましては、福祉バスの導入は、今のところ予定いたしておりませんが、高齢化社会において老人クラブの位置づけが大変重要であることから、老人クラブでの研修や公的行事への参加の際、交通の確保として、引き続き生きがいと健康づくり事業等の補助事業等による支援を行ってまいりたいと考えております。

3点目につきましては、研修や公的行事の開催に当たり、規模に応じて臨時の駐車場の確保に努めるとともに、参集の地域、対象者の年齢等を考慮し、必要に応じてシャトルバスの運行について検討いたしました。運行は厳しいのが現状でありました。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくご申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それでは、2回目の質問をさせていただきます。

まず、地域づくりビジョン、プランの策定についてであります。昨年の9月の私の総合計画に関する一般質問では、地域振興計画に関する答弁で、地域担当者が出向いて行って、地域をどうするかということ地域とともに協議をし、その1つの成果品として、地域別の振興計画をつくらうということで計画していますということであったわけですが、まず、地域とどのように協議をされているのか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

地域との協議につきましては昨年の秋口から、実質的には10月ぐらいから、21地区というのは公民館体制の21地区を基本としておりますけれども、これまで回数で言いますと、87回にわたって地区とのいろいろな事項について懇談。特に、基本的に統一としたのは、今、地域ビジョンの中でお示ししております現状と課題、あるいは地区の将来像、さらには地区のあるべき方向性を定めるための事柄等について、地区の共通の議題として協議を進めてきました。

冒頭、地域課題の前に、やはりその地域が置かれている地域資源というものを、いま一度自分たちの住んでいる地域はどんな資源を持っているんだろうかということも、地域の特性として把握するというのが大前提でスタートしたところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから3月の五十嵐議員の一般質問で、ビジョンの作成段階で、担当者の考えと市長の考えにギャップがあったわけですね。市長は、地域全員の皆様方の声を聞きながら進めていく形をとりたい。今までみたいに計画をつくれればいいのではなく、本当に地域振興につながらなかつたら意味がないので、再度検討し、報告をしたいというふうな答弁があったわけです。この「地域全員の皆様方の声を聞きながら」という点に関しては、どのような方法をとられているのか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に申しわけなく思っておりますのは、私が旧糸魚川市の地域振興計画というものがありましたものですから、ついそのような感じでお答えをさせていただいておるんですが、地域振興計画、そしてまた合併をいたしまして、非常に広範囲になっている部分につきまして、やはり地域振興ビジョン、プランというような形の位置づけをやっぱり整理をさせていただいてまいりまして、それをちょっとごちゃごちゃに、私もお答えした部分があると思っております。

地区民全員とというのは、やはり地域の方向性をみんなで共有して動いていかないとうまくいか

ないだろうと申し上げましたのは、プランのほうという形でとらえていただければよろしいかと思う次第でございます、その辺は本当に申しわけなく思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

私は市長が述べられたのは本当にそのとおりだと、3月の時点でも、非常にいいご発言だというふうに受けとめておるんです。

この地域全員の皆様方の声というのは、いろんな方法があるわけですが、私は一番わかりやすいところでは、簡単なのはアンケートですね。また、重要なことは地区の役員さんとか、地区の各種団体の皆さんから聞き取り調査といいますか、ヒアリングによって意向をお聞きすると。そのことは地区の住民にとりましては、少なくとも地域振興計画をつくらうとしているということがわかるということと、もう1つ、自分もその計画に関して考えを述べたというふうなことで、非常に参画意識というものが高くなってくるし、大事だというふうに思うんです。ですから、アンケートでもヒアリングでもいいんですが、そういう形でぜひともこのビジョンに関しても行っていただければ非常にありがたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もすべて、ずっとそういうことではないにいたしましても、やはり何度かは、そういった地域全員の声、また、お子さまからお年寄りまで、すべてのそこに住んでおられる方々の考え方、また、いろいろなご意見というものを、一度はやはり1つにまとめていただきたいと思っておりますし、また、そういう手法はぜひ使ってもらいたいと、私も職員のほうにも指導や指示もさせてもらっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから3月の市長答弁の中で、本当に地域振興につながらなかったら、意味がないんだというふうな言葉なんですね、私もそこを心配しておるわけです。

このビジョンというのは、こうありたいという姿を具体的にイメージしたものであると思うんですね。それを具体的にイメージできる人というのは、どなたかというのと、やっぱり地域の人になるわけですから、その地域の人たちの熱い思いというものが盛り込まれたものでないと、ビジョンとは言えないんじゃないかというふうに思うわけなんで、一部の人と一部の資料でつくったというふうなことにならないよう。

よく引き合いに出されるのは、旧糸魚川市でつくられた地域振興計画というふうなことが言われ

ておるんですが、このことについての反省点というのは、どんなものだったのか、参考までにお聞かせいただければというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく議員ご指摘のとおり、振興計画の中で反省点は何かというところにつきましては、あくまでもやはり計画に終わったというのが反省だろうと思っておりますし、実際計画したのなら、やはりそれが実施され実行されなければ、意味のない話であるわけであります。まさしく仏つくって魂をつくらなかったのが、私は大きな原因だろうと思っております。

それにはやはり策定の中に、きちっとした魂が入ってなかったんでないかなととらえておるわけございまして、その核なり魂を入れるということは、どういうことかと言うと、本当に自分たちのものだということを、地域のすべての人たちがやっぱり共有することが大事だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

行政だけじゃなくて、あるいは地域だけじゃなくて、企業でもビジョンというものは盛んにつくられておるんですが、企業が立てるビジョンの場合なんですけども、ビジョンそのものが企業の価値を表明するというものであって、それを見聞きする人たちを大いに鼓舞して、動機づけするものでなければならないというようなことを言われておるわけですが、行政でも、やや同じだと思うんですけども、こういった点では今回のビジョンというのは、どのようにとらえているのかをお伺いをしたいと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

渡辺議員が言われますように、やはりビジョンの考え方は、そのとおりだというふうに思っております。

ただ、今回お示しするものが一言一句、内容を違えてもらっては困るという内容のものではなくて、地区の皆さんのいろいろなお話の中で、そのものが形が変わることもあり得るというふうに思っておりますけども、基本は、前段の渡辺議員の言われたとおりだというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから中身的なところで、今回のビジョンでは現状と課題、そして地区の将来像を盛り込むというようなことなんですけども、この地域が抱える問題点を発見して目指す将来像を描く。この課題解決のための活性化に関する、今までと違ったアイデアというものも必要になってくると思うんですが、その辺、今回の目指す将来像がもう既につくられつつあるんですが、その辺のところというのは、そういう新しい感覚での、その将来像みたいなものは見出せているのかどうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ビジョンは、まさに地域の将来構想であるべきだろうと思っております。そしてプランのほうが、実施的な形に移っていく具体策だろうという形になるうかと思うわけでございまして、その辺を大きく枠の中で取り込めていければと思うわけでございまして、その辺の全然ずれた、違ったところのものまで巻き込んだり、また広げたりしたんでは、全く逆に先行きが見えないものであるわけでございまして、方向性やそういった大枠をとらえて進めさせていただきたいのがビジョンだろうととらえさせていただきますし、プランの中で具体的に絞り込んで、具体的に実際地元の方々と地域の皆さんが一体となって、進めていくものであってほしいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それからビジョンの次のプランですけども、言い方は悪いんですけども、つくっても、つくらなくてもいいというような雰囲気の話もお聞きするんですが、本当にそれでいいのかどうか。

昨年度からパワーアップ事業で、地域振興計画の計画づくりにも補助支援をするといった制度ができておるんですが、とにかく、これからパワーアップ事業なんかで、各地区の地域振興計画づくりが始まるんでしょうか、それとも呼びかけるんでしょうか、この辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

つくっても、つらなくてもというのは、ちょっとつつい言ってしまうんですが、やはりこれは地域の皆様方の将来を描く部分でございまして、あんまりどうしてもせえというような言い方は、私はしたくないわけでありまして、地域の皆様方がどのようにつくっていくのか、また、どのように進めていくかというのは、ある程度、地域の皆様方の熱意、また、そういった思いがしっかり入っていただきたい。どうしても作りなさいよなんて言うと、何か行政的な言い方になってしまうし、強制的な言い方になってはいけないという言い方を私はしますので、その辺がそのように伝わ

ったとしたら、ちょっと間違えているようなとらえ方になるんでないかなと思いますので、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

市長が言われたようなものの考え方で、私も結構だと思うんですが、ぜひともせっきく企画をされておるわけですから、全地区がつかれるように、また、なかなか乗ってこない場合は、それなりの対応をして、皆さんとともにつかれるような状況を、作り出していきたいというふうに思います。

それでは、次に国の支援制度の活用についてでございますが、まずは総務省の、先ほど市長もお答えになっておりましたが、人材で地域を元気にするツールというふうに言われておる、この3つの事業ですね。これを導入するお考えというのは、具体的にございませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

先ほど国の制度について地域おこし協力隊、あるいはまた集落支援員というような総務省のまさにメニューでありますけど、導入する気持ちがないということではなくて、今年度からスタートいたしました集落サポーターという市の単独の取り組みでもありますけれども、こういった制度。あるいは、また現行の地域担当者制度というの、昨年度からスタートしておりますので、これらの動きを見ながら。

国の制度については、とてもすばらしい制度だというふうに思っております。一方、また課題も現在、私のほうでも調査ができておるところもございます。そういったところを並行しながら活用できる部分があり、あるいはまた地区の要望というの、地区として受け入れ体制というのが一番課題になっていきます、いずれの制度も。よって、その辺も勘案しながら、もう少し様子を見ながら、導入については調査してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今、課題もあるということで、中身については十分調査済みではないかなと思うんですが、近くで上越市の集落支援員制度、それから妙高市の集落支援員制度、それから十日町の地域おこし協力隊制度、この国の制度を導入しているわけですが、こちらのほうの情報というのは入っておりませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

上越市と十日町の事例につきましては直接現地へ赴き、特に、十日町につきましては行政だけではなくて、特に都心部からお見えになっている地域おこし隊とも、直接また話を聞かせていただく機会もございました。そんなことで、いい点、悪い点につきましては、受けとめ方もあろうかと思えますけれども、一通り掌握をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

私も調査をしてみたんですが、十日町市の場合は市長のやっぱりトップダウンで導入してるんですね、この地域おこし協力隊。平成21年に5人、平成22年に10人受け入れておると。妙高市の場合は、これは市外じゃなくて市内の社会福祉士を山間集落に、高齢化率の高い地域6地区に地域支援員として配置しておると。これは山間集落の各種のサービス基盤が限界になっていると。この状況を打開する対策として導入しているというようなことなんですね。

いずれも、この導入によって課題解決への道筋が見えてきたと。地域の変化を実感できたということで、非常に今後に期待を寄せているようなんですけども、そういった意味では同じような雰囲気のある地域があるだけに、市長、いかがでしょうかね。導入していただいたら、効果が上がるんじゃないかと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員ご提言いただいた点について、私も再度勉強してみたいなと思うわけではありますが、しかし、私はどちらかというと、やはりいろんな知識、そして我々は今経験をしてまいっておるわけでありまして。そして一番地域を知っておるのは、ここに住んでおる我々なんだと。やはりそこで地元の我々がやっぱり一番、今立ち上がるべきじゃなからうかという観点から、やはり地域力を高めていきたいと思う次第でございます。いろいろな面での外人部隊、また、知識というのはよそからいただくのも結構ですが、まず、何よりも受け入れるにしても、自分たちが自立するにしても、まずここに住んでいる我々が大事だろうというのを、基本に考えさせていただいておるわけでございます。市の職員が地域へ出向いていくのもそのようなことで、みんな、まず自分たちのところは自分たちで頑張ろうやというのを、基本にさせていただきたいということでの進め方でございますので、その中でいろいろ知識を得ることに対しては、私はやぶさかでないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

市長が今おっしゃったのが本当に基本で、我々そのものが奮い立たなきゃいけないんですが。

ちょっと1例なんですけど、5月に政務調査で、鳥取県の境港市の観光振興について研修をさせていただいたんですが、ご存じのようにこの境港市というのは、水木しげるロードで妖怪によるまちづくり、これをやっておるわけですね。

この境港市の観光協会長というのは、広島県出身の梶田さんという方なんです。この方を平成16年に、時の市長さんが観光協会長に招いて就任していただいたと。その時点では、水木ロードの観光客が80万人ほどだったと。ちょうど6年ぐらいたったんですが、5倍近い370万人に伸ばしているというふうなことなんです。梶田さんは、このまちづくりは戦いだということで、いろんな仕掛けを通じまして、地元の人にはできないアイデア、それからご自身が持ってるネットワークを大きく広げて、今でも伸び続けているというふうなことをおっしゃってありましたので、この外部の人材の活用ということについても、もう我々地元の間が奮い立たなきゃならんというのは、それも事実なんですけど、いろんな意味からすると、この交流観光等を考えた場合は、特に、そういうノウハウを持った方からリードしていただくというのも、手ではないかなというふうに思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本当にそういう非常に地域振興に実力を持った方がいれば、私もおいでいただきたいというのが実情であります。やはり相手の方の人脈、そういうネットというのは、非常に私は効果があるんだろうとっております。そういうのは実力という形の中で、評価をさせていただきたいと思っております。そういう有力な人がいれば、私は全然手を結ばないということは言っておりませんので、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから、ついでで申しわけないんですが、ちょっと角度を変えた中で、地元の企業の中にも地元の雇用が第一義的に重要なんですけども、最近、首都圏から、業界の中核から人材を集めたいというような企業もあります。これはやはり全国的な競争に打ち勝つというふうなことで、いわゆるヘッドハンティングなのかもしれませんけども、トップのそういう人事になるのかもしれませんが、この地域間競争に打ち勝つためには、市民だけの意識ではやっぱり活性化しないと。外部の人材も入れる中で、新たな展開をしたいというようなことも考えておるようですので、これはちょっと角度が違いますので、そういうふうな企業の動きというのは、外部人材については考えてるところもあるというふうに、考えていただきたいというふうに思います。

それから、次に、NPOや大学の活用と協働に関する取り組みについてなんですが、こちらについては、特に大学との連携に関してですけども、佐渡市では平成22年度は、47事業で25の大学と連携して事業を実施していると。佐渡市も糸魚川市同様、非常に厳しい将来予測をしております

して、そのために歳入歳出改革を盛り込んだ成長力強化戦略、将来ビジョンを作成して、その課題解決の方法として、今年度、23年度は大学発、佐渡夢プロジェクトという事業を実施するという。これは大学からの政策提案によって、佐渡市の将来ビジョンの実現に向けた取り組みを推進する大学発政策提案事業。それから学生の発想、感性、行動力等を活用して、佐渡市将来ビジョンの実現に向けた取り組みを推進する佐渡の魅力発掘創造活用事業、この2つの事業を立ち上げると。

この2つなんですけども、23年度は募集をしまして、24年度、25年度に事業化したいと、非常に私は魅力を感じとるんですが、糸魚川市としても、ぜひともこのような取り組みを考えていただけないかなというふうなことを感じとるんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今までにおいても糸魚川市も、1つの大学とすべてということではなくて、いろんな立場、立場の中で、大学連携は図らせていただいております。地域振興においても、やはりそういった有利になるようなものがあれば、連携をとらせてもらいたいとは思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから、先ほどの佐渡市の例でいきますと、この人口減少の対策ということで新潟大学、それから東京農業大学と提携して人材育成をしておると。これが功を奏したのが、平成27年には、新潟大学の自然再生学部を誘致する。平成31年には、それを国際的に広げて、教職員を含めて350名とする計画を進めていると。この大学のほうでは、この地域を研究の場にする、いわゆるフィールドにするというふうなことで、実践的な研究が行われるというふうなことです。また、地域としては、それらの知的資源を活用することで、新たな問題点の解決策を見出すと。これはまさしく糸魚川市においても、この地域振興計画とか、あるいはジオパーク事業、これは全くこういう大学と連携して取り組んだら、効果は物すごく上がるんでないかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ジオパークに関しましては、全国の各ジオパークは大学と連携をとって、ジオパーク認定に向かっているところが多いわけでありまして。幸いにして、糸魚川市は自前でできたわけでありまして。そういう中では、大学との連携はなかったわけですが、しかし、今までのいろいろな大学の研究室や、大学の皆様方との連携の中で進めてまいっておるわけでありまして。

そのようなことで、ジオパークについては今ちょっとそういった方向はないんですが、今ほど申しましたように地域振興、そういったことの中で、やはり当地域に非常に思い入れをいただくような大学があれば、私は喜んで入ってきていただきたいと思ってる次第でありますし、時あるごとに私は言っとるんですが、やはりそれについても何か1つのつながり、そういった何か結ばれた連携がないと難しいんだらうということで、私自身も関係のある大学にはちょっと行ったんですが、私の経験のところで、なかなかつながらなかったわけでありまして、職員もそうでしょうし、市民の方々もそうございましょうし、大学のOBであったり、また、いろいろつながりがあるわけでございますので、そういったところでもしご紹介いただければ、幾らでも私はその中でいいところと組みたいなと思っとる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

ありがとうございます。

それから、国では大学と連携した地域づくり助成事業、これにかなり力を入れていると。地域の経済の活性化、あるいは住民の生活環境の改善を目的とした、地方公共団体による大学と連携した地域づくりを支援するために、その事業にかかる費用の一部を助成する制度を設けて連携を進めていると。ぜひともそれを活用した事業を考えていただきたいというふうに思いますし。

それから、何と云って先ほど市長がおっしゃった大学ということになりますと、近くの大学ということで上越教育大学、それから新潟看護大学ですね、何と云っても、上教大では法人化した平成16年度から、達成すべき業務運営に関する中期目標で、地域貢献を目標の1つにしていると。それから看護大学は、主に看護分野に関する調査研究事業を通じて、地域連携を行っている。

特に、この上教大の学長を長年されて、現在、看護大の学長をされている渡邊 隆さん、一昨年のジオパークの世界認定が決まったときのキックオフフォーラムの講師、講演をされた先生ですが、この先生が、もっと大学を使った地域振興をしてほしいということ、一昨年のキックオフフォーラムでおっしゃっていたのを私は覚えているんです。そんなことで、能生地域でこのほど活性化協議会という協議会ができたんですが、早速この大学と連携して地域づくりを考えたいというようなことで、渡邊学長からアドバイスもいただいておりますね。

したがって、身近な大学の学長が、そういうふうにおっしゃっているんで、糸魚川市としまして、まずはこの地元の2つの大学との連携というのを考えていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

連携は当然、私は先ほどから答えてますように進めていきたいわけですが、やはりどういうものをやるのか、どういう形でいくかというところを、しっかりその中で明らかにしていきたい

いと思っておりますので、先ほど言いましたように、全国のすべての大学とできるわけではございませんし、どうせ結ぶんなら、やはりこれから一体となって進めていけるような大学と、結んでいけたらと思っておるわけでございますので、そういった意思確認というのもさせていただきたいわけでございますので、その辺もいろいろと話し合いの中で、また、協議をしながら進められればと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

ぜひともよろしくお伺いをしたいというふうに思います。

では、次のテーマに移りたいと思うんですが、ジオパーク現地研修の必要性和交通の確保ということで、お伺いをしたいんですが、このジオツアー、それから定期観光バス等による現地研修にも力を入れてもらっておるわけですが、この市の企画する現地研修に、どれぐらいの市民の方が参加しているのか。昨年の実績で結構なんですが、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お答えします。

非常に多くの方に参加いただいております。例えば学習支援ということで、子どもたちを中心でありますけども、62回で1,363人。それから、出前講座ということで102回、4,217人。それからガイドの養成講座、特に現地を含めてですけども6回、勉強会が3回ということで、271名の方に参加していただいております。また、ジオツアーということで、24のサイトを含めて、すべてではありませんけど、現地研修を含めまして養成講座が7回、119人の方に参加いただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

自治会とか各種団体が、ジオパーク現地研修をしたいと。これは市の企画じゃなくて、自主企画で実施しようとする場合、市が協力できることにはどんなことがあるか、お伺いしたいと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

現在の支援の形態としては、学芸員、文化振興のほうと調整をとりますけども、そのほか私ども

の職員、それからジオパーク協議会を主体にしたガイドの皆さんと協力調整を図りまして、特に現地でのガイドを主体に、協力、連携させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

市が主催するツアーの場合ですけれども、これはやはり発着場所とか時間、これを考えると、なかなか参加しにくい地域の人たちもいるわけですね。したがって、自治会とか各種団体では自主活動として、自家用車とかバスをチャーターして現地研修をしているというふうなのが現状じゃないかと思うんですが、こちらのほうも気軽にというわけにもなかなかいきませんので、なかなか広がっていかないと。したがって、そういうふうな方々から自主的なジオパーク研修を容易にするためにも、市のバスの貸し切りとか、あるいはそれができなきゃ民間のバスの借り上げ、こういうものに補助をする制度なんかをしていただければ、もっともっと広がるんじゃないかというような声もあるんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

確かに議員お話のとおりジオパーク事業の啓発、並びに市民の皆さんに理解を深めていただいて、それを地域の活性に非常に利用していただく。あわせて交流人口の拡大に結びつけるというのは大きな課題でありますし、その事業に対してやはり協力いただくことは、非常にありがたい話だというふうに思っております。

ただ、先ほど市長答弁のとおり地域の集落、それから団体、そして老人会を含めて地域の皆さん総体に話を投げかけますと、やはりそのエネルギーは大変なものになると思います。そのような数からいっても、やはり今所有のバス等では対応しかねる部分、それから事業の数でも非常に大きくなるのではないかなというふうに思っております。

ですから今の現状の中では、ジオパーク協議会、それから市が主催する、やはりこちらでご用意できるバスの形態で今運用させていただいております。一定の基準を持ちながら貸し出しせざるを得ない現実を、ご理解いただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

その辺のところを創意工夫をしていただきたいと思うんですね。世界ジオパークに認定された日本のこの4地区の活動、それぞれ一生懸命のようなんですが、中でも私、山陰ジオパーク、昨年研修をさせていただいたわけなんですが、そこでは地域や職場の現地研修に、市及び市社会福祉協議会の公用バスを運行します。また、公用バスが予約済みで運行できない場合、民間貸し切りバス借上料の助成もありますので、ご相談くださいというのをきちっと明記されておるんですね。

やはりこの取り組みの姿勢なんですけども創意工夫で、制約があるというふうなことよりも、そこはやっぱり少し突破していただいて、山陰ジオパークのような取り組みというのはできないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

非常に悩むところではありますけども、その団体の皆さんが、どのような形態で研修をなされるのか。やっぱり飲食を伴ったり、やっぱり現地研修を主体にされるのか、内容がいろいろあると思いますので、そこら辺、やっぱり一定程度お話をさせていただく以外にないのかなという部分もあります。

それから、できるだけ私どもは人的な連携は深めさせていただいておりますので、ご相談があれば、やはりガイドとか説明員を含めて現地並びに一緒に同行して、皆さんと一緒に研修を深めるといような形で、今対応させてもらっておりますので、やはり物理的な部分も含めまして、少しご理解いただきたい範囲であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この山陰ジオパーク、世界認定は私どもよりも遅かったわけですが、世界認定をされる際に担当官は、一番よかったことは山陰海岸ジオパークの皆さんは、ジオパークが何なのか十分理解してるようだというコメントがあったということなんですね。これは何よりも、気軽に地元の人たちが現地研修を行っているということ等もやっぱり言われておりました。

したがって、この市民向けの交通の確保というのは、やっぱりすぐにでも実施してほしいというふうに思うんですが、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、課長が申し上げているのは、やはりジオパークに、ただじゃあ行ってみようかと。行っただけなのは非常にありがたいんですが、やはり説明やいろんなものが伴うだろう。そういうことになりますと、ある程度計画をさせていただいて、ガイドなり説明員がつくべきだろうという形が、必要ということでもあります。

また、足ということでございますので、その辺の足はどうすればいいのかというのは、やはりこれからの中で進めなくてはいけないと思いますし、いろんなやり方は今言われましたように、工夫があるんだろうと言われました。私もそのとおり、そういったものを工夫していかなくちゃいけないだろう。

特に、私は高齢化社会の中において、お年寄りがこういった生涯学習の中で取り組んでいただくことは、私、大事だろうと思うわけでございますので、老人クラブ単位にまたいろいろお考えいただいでいくことに対しては、私はこれは工夫していかなくちゃいけないと思っておるわけでありませう。

そのほかに関しては、やっぱり少なくとも公民館単位みたいなことでもってまた事業を組んでいただいで、取り組んでいただければありがたいなと。そういう形でまとめて、また計画的に進めさせていただければありがたいと思っておりますので、できればそのような方向で、地域の皆様方と進めさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それで、今ほど市長からももうお話が出ておりますが、2番目なんです、関連しておりますが、交通弱者対策として福祉バスの配備についてということなんです。老人クラブからジオパークめぐりとか、地区の運動会への参加などで、市のバスの便宜を図っていただけないかというような要望もお聞きしておるんですが、現行では、わかりましたというわけにはいかないというのが、当局の反応のようなんです、やっぱりこれは、そういう対応はできないんです、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

先ほど市長が申し上げたとおり、福祉団体にも市のバスを貸し出ししてるわけでございますが、何せ老人クラブになってくると120を超えるような団体の数ということでございまして、老人クラブに貸し出しすること自体は拒むわけではないんですが、その数の問題で市の福祉バスの貸し出しに限界があるということでございます。

できることであれば連合体等の形で、福祉目的に使っていただくような形を考えておりますし、現に連合体で、いろんな福祉団体の方々にご利用いただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

いろんな方から、そういう要望が来ているということは、皆さんからもお伺いしてるんですが、何とかならないでしょうかというふうなことを話をすると、公民館事業の中へ組み込んでいただければ方法はありますよとか、いろいろ教えてくださる職員もいるようなんですが、一発でありませんというふうにお答えする方もいらっしゃるみたいで、それで終わりというふうなことなんで、非常に残念な気がいたしておるんですが、担当部署においては、権限のない職員はそのような回答をするのも、無理からぬところもあるかなというふうにも思うんですけども、やはり交通弱者におい

ては、非常に足がなければ動けないというのが現実なんです。

この福祉バスについては、なかなか皆さんに満たすわけにはいかないというふうなことなんです。もう1つは公民館制度が確立したもんですから、生涯学習が非常に盛んになってきました。今度はやはり、またそこに足の問題が出てくるわけですね。

この糸魚川市の生涯学習のスローガンを見てみますと、「ふるさとを愛し、ともに学び、ともに輝く人とまち」で、ここからなんです。いつでも、どこでも、だれでも、学習できる条件づくりと、学習したことが生かされる社会を実現しようというふうなことなんです。したがって、この交通弱者に対する配慮も、当然のことながら必要じゃないかなというふうなことなんです。この唱えていることができないような現状っていうのは困るわけなんで、この辺の観点からはいかがでしょうかね、この問題に関して。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

生涯学習の観点から、バスの弱者への配置ということでございます。

先ほど市長がお答えしましたように公民館事業、あるいは生涯学習事業という位置づけを地域の方々が計画される、そのような場合には、今、補助制度というわけではございませんけども、バスの配置、借り上げによるバスの運行というのを今も実施しております。

それは成人教育、あるいは子どもさんたちのいろいろな事業をやっておりますけども、子どもだけで集まっていただく、ジオサイトを見学するワクワク探検隊でありますとか、ふるさと楽習塾。そういうものについては、子どもたちだけで集まってくるわけにはいきませんので、バスを手配するというところでございますし、また、生涯学習の講演会等の場合についても、高齢者の方に集まっていたきたいような場合に、バスの運行を今後も検討してまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

市民の方からいろんなところへ出かけていただいて、市を知ってもらったり、あるいは個人の知識を高めたりするということは大変な重要なことでありますし、やっぱりそれらが市、あるいは地域の活性化につながるんだろうと思っています。

市全体のマイクロバスにつきましては、一定の台数の制限があること、あるいは運転手の制限等があることから、運用基準を設けましてやっとなるわけではありますが、今、渡辺議員がおっしゃったように、いろんなところからの要望があるわけです。先ほど市長が言いましたように、やっぱりどこか絞って、やっぱり何かいい方法を検討しなきゃならんというふうなことは考えておりますので、もう少し今のバスの状況、あるいは全体の中を見て、やっぱり地域が自分のところはよくなった、あるいは個人が高まるようであれば、これらのことを積極的に取り上げるということも1つの方法

だと思っていますので、今のご要望については内部の中で検討して、何とかいい方向はないか、模索をしてみたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

ぜひお願いをしたいと思います。

それから高齢者の運転免許自主返納支援制度、こういうものを市で高齢者に対して自主返納をお願いしてるというわけですので、したがって、この足の確保という点で高齢者の要望に耳をかすということも、やっぱり1つは温かい行政じゃないかというふうに思いますので、そういう観点からも、ぜひお願いをしたいというふうに思います。

それから次に、3番目の夜間の交通と駐車場についてであります。この催し物、結構いろいろやられておるんで非常にありがたいんですが、基本的にこの参加を呼びかける人たちすべてに、満足していただけるような配慮、これも必要ではないかと思うんです。そのためには、参加者が家を出て帰るまでの往復の動き、こちらの動きにも配慮が必要になると思うんですね。

意外に会場での催し物の中身中心の企画、こういうことで入場料金が平等であれば、それでオーケーというような感覚もあるんじゃないかと思うんですが、これではなかなか遠方の市民というのは対応できないわけです。特に、市民会館等の自主事業も夜間が多いようなんですけども、この入場料金以外の配慮としてどんなことを考えて、実際やっておられるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 小林 強君登壇〕

教育委員会文化振興課長（小林 強君）

お答えいたします。

渡辺議員ご指摘のとおりでありまして、現実的には、そういう細かいところまで配慮してやっているかといいますと、ご指摘の点が多々あると思いますので、今後、その点については、十分配慮をする中で取り組む必要があるというふうに、改めて考えさせられたところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

足の確保という点では、私も遠方に住んでるものですから、そういうふうにも実感として感じているわけですが、シャトルバスなんかによる利便性の確保なんかも、重要な会合等については、そんな感じでしていただきたいということとか、それから駐車場なんですけど、どうしても遠方から来ますと、駐車場が空いてるか、空いてないか、どこに駐車場があるのかということになって、30分も1時間も前から実際に来ているというケースが多々ありますが、これは近場の人たちからは、逆に車で参加を遠慮してもらおうとか、そういう何か工夫をしていただかないと、遠方から来る我々にとっては非常に厳しいんですが、そんな考えもありませんかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

現在、市民会館等で行事をやる場合には、職員の車をなるべく乗ってこないようにとか、そういった形での配慮をしてきたところであります。

今後とも能生、青海地域で行う場合にあっても、青海の場合は比較的広い駐車場がありますけども、能生地域の場合には、また近隣の事業所さん等の協力もお願いをするというようなことが、必要なというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それからヒスイ王国館での会合、これは電車を使った場合は非常に便利なんですけど、車の場合、30分以上の利用で駐車料金が発生するわけなんですけど、この無料駐車券を発行していただける会合と、いただけない会合があると。この市の催し物の場合は、どのような扱いでやっておられるのか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

恐らく主催者のお考えの中で、すべて会のほうで補助するとか、また一部補助という形になっておりますのか、その辺が違うもんですから、ちょっと受け皿がみんな違っておるんだろうと思うわけでございます。その辺は、統一的にはちょっと難しいと思いますので、今の段階では、そのようなお答えしかできないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この件では、ヒスイ王国館のお話では、あくまでも主催者のお考えで発行しているから何とも言えないと。ただ、一貫してないようだというふうなことを言っておられます。

そこで参加者が駐車券を催促するということは、なかなかできないんですね。したがって、市の主催だと、ほとんど無料なんじゃないかということなんですけど、それも一貫してないわけですから、この気配りといいますか、その辺を働かしていただかないと、参加される方がもらえるのか、もらえないのかというようなことを言っておられますので、ぜひともその辺、配慮していただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

総務部長（田鹿茂樹君）

今、市長のほうからの答弁にありましたように、主催者の判断で出したり、出さなかったりということですが、私も何回か会合に出た中では、司会のほうから、こういう無料券を用意しておりますというような案内をしている会もございます。

したがって、今後、市の主催でもし無料駐車券を出す場合については、議員がおっしゃるように来た方からもらいづらい、言いづらいというものもあるので、そこら辺の配慮は今後もさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

遠方の市民というのは、実際、交通費で大きな出費をしているのが実情なわけです。本来、会合の中身というのは大事なんですけども、遠方の市民においては行きづらい会場での催し物の場合は、どうしても足が遠のきますし、だんだん行かなくなると。

一度こういう実情をアンケートなり聞き取り調査をして、対策も立てていただきたいというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

全く私もそのとおりでと思っておりますので、その辺、会の開催の運営につきましては、どのようにしていくかということ、やはりもう一度、運営する組織で考えなくちゃいけないことだろうと思うわけございまして、場所を順番に回すという方法もありましょうし、また、今言われるように、距離の離れたところはどうすればいいのかというような、いろんな工夫を考えながら、多くの方が、いろんな会合やイベントに参加できるような工夫は、しなくちゃいけないと思うわけございまして、これからのまた運営の中で、そういったところも大きな課題として取り上げていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

ありがとうございます。ぜひともそのようにお願いをしたいと思います。

能生地域では民間の飲食店さんは、送迎が当たり前になっとるわけです。また、そうしないと商売にならないと。これは決してわがままなことじゃなくて、交通事情からきていることでありまして、行政におきまして、ぜひとも今、市長がおっしゃいましたように工夫をしていただいて、そ

のように対応していただければ、非常にありがたいというふうに思います。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでございました。

午後3時42分 延会

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+